

同志社大学

データブック

2014

同志社大学設立の旨意 (抜粋)

明治七年の末、胸中一片の宿志を齎し、十余年来
夢寐の間に髣髴たる我が本国に帰着せり。

明治八年十一月二十九日、同志社英学校を設立し
たり。是れ即ち現今同志社の設立したる創始なり。

斯くの如くにして同志社は設立したり、然れども
其目的とする所は、独り普通の英学を教授するのみ
ならず、其徳性を涵養し、其品行を高尙ならしめ、
其精神を正大ならしめんことを勉め、独り技芸才能
ある人物を教育するに止まらず、所謂の良心を手腕
に運用するの人物を出さん事を勉めたりき。而して
斯くの如き教育は、決して一方に偏したる智育にて達
し得可き者に非ず。

唯だ上帝を信じ、真理を愛し、人情を敦くする基
督教主義の道徳に存することを信じ、基督教主義を
以て徳育の基本と為せり。

吾人は政府の手に於て設立したる大学の実に有益
なるを疑はず。然れども人民の手に拠って設立する
大学の、実に大なる感化を国民に及ぼすことを信す。

其生徒の独自一己の気象を發揮し、自治自立の人
民を養成するに至っては、是れ私立大学特性の長所
たるを信ぜずんば非ず。

一国を維持するは、決して二、三英雄の力に非ず。
実に一国を組織する教育あり、智識あり、品行ある
人民の力に拠らざる可からず。是等の人民は一国の
良心とも謂ふ可き人々なり。而して吾人は即ち此の
一国の良心とも謂ふ可き人々を養成せんと欲す。吾
人が目的とする所実に斯くの如し。

明治二十一年十一月

同志社大学発起人 新島 襄

現代語訳

「同志社大学を設立する目的」(抜粋)

明治七年の末に長年抱いていたひとつの
志を胸に秘めて、十年以上ものあいだ夢に
まで思い浮かべたわが国に帰国した。

ただちに明治八年十一月二十九日に同志
社英学校を設立した。これが現在の同志社
設立の始まりなのである。

このようにして同志社は設立されたが、
その目的はただ単に普通の英学を教えるだ
けでなく、徳性を磨き、品性を高尙にし、精
神を正しく強めるように努め、ただ技術や
才能のある人物を育成するだけでなく、い
わゆる「良心を手腕に運用する人物」[良心
の全身に充滿したる丈夫]を産み出すこと
に努めてきた。しかもこのような教育は、一
方に片寄った智育だけでは決して達成でき
るものではない。

それはただ神を信じ、真理を愛し、他者
に対する思いやりの情に厚いキリスト教の
道徳によらなければならないと信じて、キ
リスト教主義を徳育の基本とした。

政府の手で設立された大学が実に有益
なのは疑いない。けれども国民の手で設立
された(私立)大学が、まことに大きな感
化を国民に与えることも事実である。

学生が自分独自の気質を發揮し、自治、
自立の国民を養成する点は、これこそ私立
大学が持っている特性であり長所である、
と信じて疑わない。

一国を維持するのは、決して二、三の英
雄の力ではない。実に一国を形成する、教
育があり、知識があり、品性の高い人た
ちの力によらなければならない。これらの人
たちは「一国の良心」とも言うべき人たち
である。そして私たちはこの「一国の良心」
ともいうべき人々を養成したいと思う。
私たちの目的は実にここにある。

明治二十一年十一月

同志社大学発起人 新島 襄
〔現代語で読む新島襄〕から〕

Doshisha College Song (Words by W.M.Vories, 1908)

One purpose, Doshisha, thy name
Doth signify; one lofty aim:
To train thy sons in heart and hand
To live for God and Native Land.
Dear Alma Mater, sons of thine
Shall be as branches to the vine;
Tho' through the world we wander far and wide,
Still in our hearts thy precepts shall abide!

対訳 (児玉実英 訳)

同志社よ、その名は一つの目的を意味する。
その学徒の精神的、肉体的に、
神のため、祖国のため、生きんという
一つの崇高な目的を。
親愛なる母校よ、同志社の学徒は、
ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。
たとえ、世界くまなく、広くはるかに、
われらさまよつとも、汝の教訓は、
われわれの心に永遠に生き続けることであろう。

同志社徽章 制定年 / 1893 (明治26) 年 デザイン / 湯浅吉郎 (半月)



正三角形を3つ寄せたこのマークは、国あるいは土を意味するアッシリア
文字「ムツウ」を圖案化したもの。考案者の湯浅半月は、本学が生んだ詩人
(代表作『十二の石塚』)であり古代オリエント学者である。制定された当時、
半月は本学の神学校教授であった。制定以来、知・徳・体の三位一体ある
いは調和をめざす本学の教育理念をあらわすものと解釈されている。

School Color of Doshisha

スクール・カラーはPurple&White (紫と白) の2色である。紫はロイヤル・パープルで日本の古代紫
と江戸紫の中間色に相当する。創立者新島襄が学んだ米国アーモスト大学のスクール・カラーと同色
である。社旗は、地を紫に、徽章を白で抜く。

Contents

同志社大学設立の旨意	1	奨学金	14
カレッジソング、徽章、コンテンツ	2	キャリア形成支援	15
同志社の原点・沿革	3	国際交流	16
同志社大学組織図	5	産学連携・社会貢献、学術資料について	17
学部・学科INDEX	6	財務状況	18
学生数・教職員数	9	今出川キャンパス	19
志願者数・合格者数	10	京田辺キャンパス	21
教育	11	建物紹介	23
研究	12	アクセスマップ	24
学生生活サポート	13		

同志社の原点

新島襄は139年前の日本において、「良心」と「自由」に満たされた学園を開拓する一方で、高尚な志の大切さを訴え続けました。

新島襄の志

新島襄（1843～1890）は、21歳で幕末の日本から密出国して渡米しました。人びとが奴隷扱いされ、息苦しい封建社会に束縛されることに我慢ができず、自由と人権を求めての冒険でした。

留学中、キリスト教徒となった新島は、しだいにひとつの夢を膨らませます。「自由」と「良心」に立つ人間を養成するキリスト教主義教育を日本でも実現したい、という夢です。

10年ぶりに帰国した新島は、さっそく京都に同志社英学校を創立しました。同志社とは、「志を同じくするものが創る結社」です。その原点は、もちろん新島の志です。

Doshisha College SongにもOne purposeとあります。これも「ひとつの志」、「同じ志」、すなわち「同志」を意味します。



新島が脱国し、渡米のために乗船したワイルド・ローヴァー号（油絵・チャタム歴史協会所蔵）



新島の脱国衣装

「自由」と「良心」をベースに

新島の夢は、「良心」と「自由」に満たされた学園と社会の実現です。彼は、日本が自由で民主的な近代国家になるためには、一人ひとりの個性と人格が十分に尊重されることが、大事だと考えました。だから、同志社においても彼は生徒一人ひとりの人格を尊重しました。生徒はかけがえのない「同志」でした。

新島は「遺言」の中でも、「学生を丁重に対応すること」を教職員に望みました。この遺訓は、今も本学では大事に守られています。

新島は、大学昇格を目指しながらも、募金運動の途中、志半ばで倒れました。

志の実現には200年

未完に終わった新島の遺志は、教員たちなどによって引き継がれ、死後22年にしてようやく同志社大学が実現しました。

生前、新島は勝海舟に「大学の完成には200年

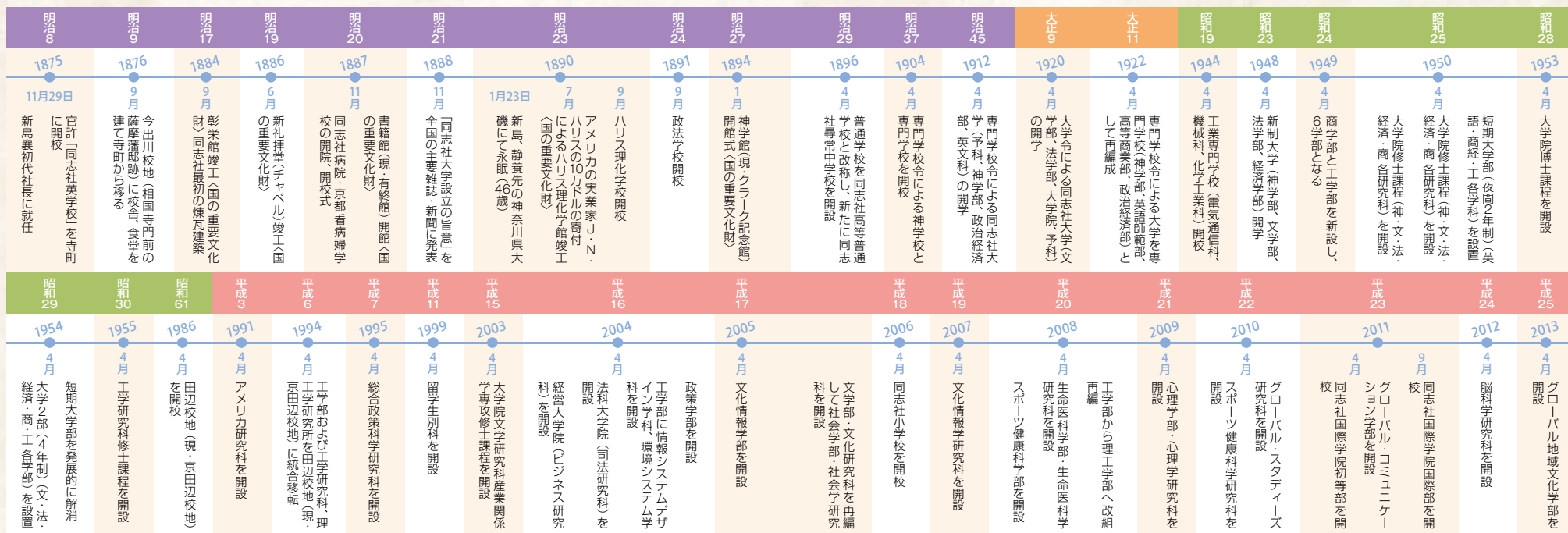


新島 襄
(1843～1890)

と答えています。すでに創立139年を経た本学ですが、いまでも新しい学部や大学院の設置を始め、先端的教育・研究体制の整備や充実、組織の改編などに積極的に取り組んでいます。まだまだ発展途上の学園だからです。

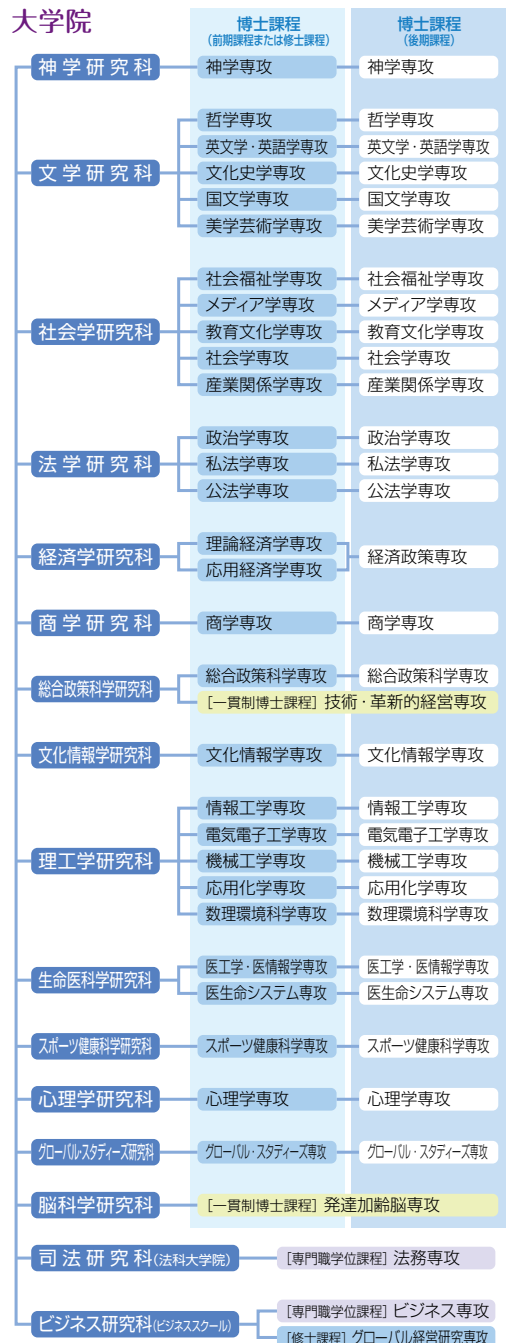
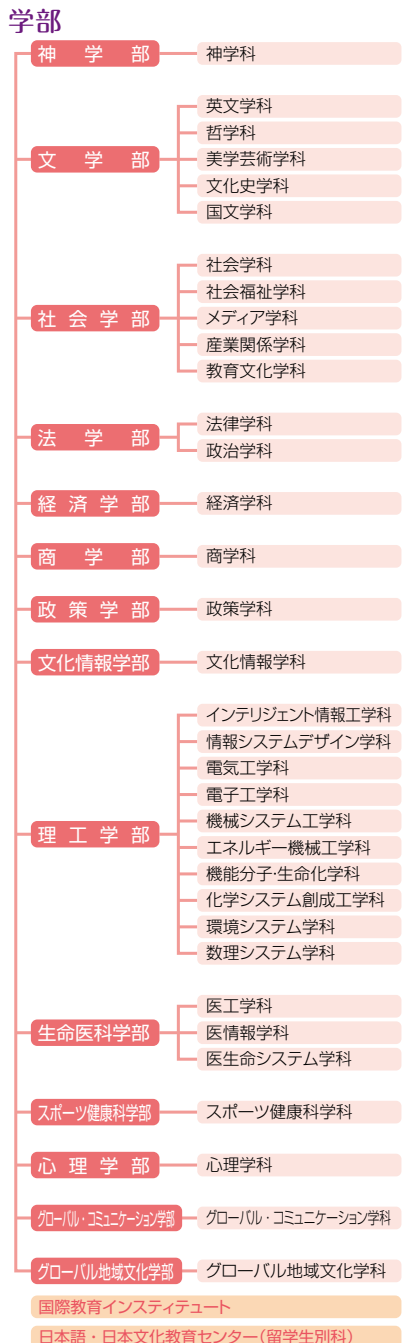
これからも、教職員や卒業生はもちろん、学生一人ひとりが、同志社の「原点」である新島の志を中軸にした「同志」となって、彼が目指した大学の完成を目指します。

沿革



同志社大学組織図

http://www.doshisha.ac.jp/information/overview/organization/university.html



学部・学科INDEX

http://www.doshisha.ac.jp/academics/undergrad/list.html

	神学部	文学部	社会学部	法学部
設立年	1875年 同志社創立以来の神学研究機関	1875年 同志社創立以来の英文学科をはじめ、5学科で構成	2005年 文学部から独立し、新たに5学科でスタート	1891年 開校の政法学校政治科が前身
学科 (1学年定員)	神学科 (60)	英文学科 (300) 哲学科 (65) 美学芸術学科 (65) 文化史学科 (120) 国文学科 (120)	社会学科 (82) 社会福祉学科 (93) メディア学科 (83) 産業関係学科 (82) 教育文化学科 (75)	法律学科 (650) 政治学科 (200)
主たる校地	今出川	今出川	今出川	今出川
専任教員数 (注1)	16	72	48	57
学生数 (女子) (注1)	289 (151)	3,104 (1,964)	1,932 (1,017)	3,788 (1,428)
学部の特色	1.キリスト教、イスラム、ユダヤ教の3つの一神教を学ぶ世界有数の教育環境 2.「文明の共存」を目指して、国際的に活躍できる人物を養成	1.日本文化伝統の地、京都で本物の文化に触れ、生きた学びを体感 2.歴史ある少人数教育による手厚い教育指導を実施	1.人間と社会の関わりを焦点に、社会現象を理論的に解明 2.現場の体験を重視した実践的な教育、フィールドワークと実習が充実	1.企業法務、ジャーナリストなど将来の専門キャリアのための実践的教育を展開 2.大学院との提携による高度な専門教育を展開
取得できる免許・資格 (注2)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(宗教) ●高等学校教諭一種(宗教) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(英語、国語、社会) ●高等学校教諭一種(英語、国語、地理歴史、公民、福祉) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など (注3)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(地理歴史、公民、福祉) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など (注3)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(地理歴史、公民) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など
関連のある主な資格	牧師 など	考古学技師 など (注4)	社会調査士、社会福祉士、精神保健福祉士 など (注4)	弁護士、裁判官、検察官、公認会計士、税理士、司法書士、行政書士、宅地建物取引主任者、社会保険労務士 など
卒業後の主たる進路①(就職)	●教育・福祉 ●牧師 ●大手企業(サービス、商社 など) ●国際機関 ●国家・地方公務員	●教育・福祉 ●大手企業(金融、出版、サービス など) ●シンクタンク ●大手企業(マスコミ、サービス、銀行、保険、証券 など)	●教育・福祉 ●国家・地方公務員 ●シンクタンク ●大手企業(マスコミ、サービス、銀行、保険、証券 など)	●弁護士、裁判官、検察官 ●国家・地方公務員 ●ジャーナリスト ●大手企業(金融、流通、メーカー など)
卒業後の主たる進路②(大学院進学)	同志社大学大学院：神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策科学研究科、文化情報学研究科、理工学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、脳科学研究科 同志社大学専門職大学院：司法研究科(法科大学院)、ビジネス研究科(ビジネススクール)			

注1 教員数、学生数は2014年4月末現在
注2 小学校教諭一種は神戸親和女子大学通信教育部(男女共学)との連携による
注3 取得できる教員免許の教科は学科によって異なる
注4 関連ある資格は学科によって異なる

学部・学科INDEX

http://www.doshisha.ac.jp/academics/undergrad/list.html

	経済学部	商学部	政策学部	文化情報学部	理工学部	生命医科学部	スポーツ健康科学部	心理学部	グローバルコミュニケーション学部	グローバル地域文化学部
設立年	1891年開校の政法学校理財科が前身	1922年開校の専門学校高等商業部が前身	2004年度開設。政治・行政学、法学、経済学、組織論の4領域を統合した学部	2005年度開設。文理融合の学部	1890年開校のハリス理化学科が前身。2008年度改組再編	2008年度開設。工学・医学・理学の融合的なフィールドにおいて「生命」を対象とした先端的教育研究を行う	2008年度開設。多角的かつ科学的な視点でスポーツと健康の関係について学修する	2009年度開設。専門的な講義および少人数クラスにおける演習・実習を通じて、高度な知識と技能を身につける	2011年度開設。高度な外国語運用能力とともに、幅広い教養、異文化理解力を養う	2013年度開設。グローバルな視点から各地域の諸問題を見る眼を養う
学科(1学年定員)	経済学科(850)	商学科(850)	政策学科(400)	文化情報学科(280)	インテリジェント工学科(80) 情報システムデザイン学科(80) 電気工学科(75) 電子工学科(85) 機械システム工学科(90) エネルギー機械工学科(70) 機能分子・生命化学科(80) 化学システム創成工学科(80) 環境システム学科(50) 数理システム学科(40)	医工学科(90) 医情報学科(90) 医生命システム学科(60)	スポーツ健康科学科(210)	心理学科(150)	グローバル・コミュニケーション学科(150)	グローバル地域文化学科(180)
校址	今出川	今出川	今出川	京田辺	京田辺	京田辺	京田辺	京田辺	京田辺	今出川
専任教員(注1)	54	50	36	29	116	42	23	20	29	53
学生数(注1)	3,906(1,060)	3,726(1,437)	1,777(808)	1,258(598)	3,427(464)	1,126(379)	802(235)	690(439)	588(400)	392(272)
学部の特色	1. 経済学への理解を深め、論理的思考や政策立案能力を養成 2. 充実した情報教育により社会で活躍できる人物を養成	1. 公認会計士、税理士などの合格者数は全国トップレベル 2. さざまな分野の実務家による実践的な授業を展開	1. 自ら問題を発見し、解決できる能力を育成 2. 多角的な視点で、政策課題を学ぶ専門教育を展開	1. 人間の営みである「文化」を分析し、新たな見方を発見 2. 高度なデータ分析能力を修得し、情報を使いこなせる能力を育成	1. 次世代の技術革新に対応するため、理工学の基礎を徹底的に教育 2. 世界トップレベルの施設を完備し、大学院進学率は50%以上	1. 工学と医学の融合分野における先端科学領域で活躍するエンジニアや研究者を育成 2. 工学、医学、基礎生物学など多様な学問との融合的教育研究	1. 人々の健康増進、スポーツの社会的発展に貢献できる人材を育成 2. 学内外の研究・医療機関と連携し、充実した研究環境を提供	1. 3つの履修コースによる体系的で専門性の高い教育を展開 2. 伝統の少人数教育のもと実験・実習の充実、社会にリンクするプロジェクト型教育などにより実践的問題解決能力を育成	1. 卓越した実用的外国語運用能力を育成 1年間のStudy Abroad必修(英語コース、中国語コース) 1. グローバル社会でfacilitator, negotiator, administratorとして活躍できる人物を育成	1. それぞれの地域の社会的、文化的特質や、地球規模で起こるさまざまな課題にグローバルな視点から取り組みめる人材を育成 2. コロムビア、アジア・太平洋、アメリカの3つのコースのいずれかに属して各地域の言語を運用する能力も修得
取得できる免許・資格(注2)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(地理歴史、公民) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(地理歴史、公民、商業) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(公民) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(数学、社会) ●高等学校教諭一種(数学、地理歴史、公民) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(数学、理科) ●高等学校教諭一種(数学、理科、情報、工業) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など(注3)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(数学、理科) ●高等学校教諭一種(数学、理科) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など(注3)	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(保健体育) ●高等学校教諭一種(保健体育) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●小学校教諭一種 ●中学校教諭一種(公民) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員 など	●図書館司書 ●博物館学芸員	●小学校教諭一種(社会) ●高等学校教諭一種(地理歴史) ●図書館司書 ●学校図書館司書教諭 ●博物館学芸員
関連のある主な資格	公認会計士、税理士、中小企業診断士、IT/スポーツ、基本情報技術者、ネットワークスペシャリスト など	公認会計士、税理士、中小企業診断士、証券アナリスト、ファイナンシャル・プランナー など	公認会計士、税理士、中小企業診断士、司法書士、行政書士、宅地建物取引主任者、社会保険労務士 など	社会調査士、情報処理技術者 など	電気主任技術者、電気工事士、陸上無線技術士、弁理士 など(注4)	弁理士、技術士、情報処理技術者 など	健康運動指導士、各種スポーツ指導者資格、障害者スポーツ指導員 など	認定心理士 など	TOEFL、TOEIC、実用英語技能検定(英検)、国際連合公用語英語検定試験(国連英検)、中国語検定試験、漢語水平考試(HSK)、J-TEST 実用日本語検定試験、BJTビジネス日本語能力検定試験、韓国語能力検定試験 など	TOEFL、TOEIC、実用英語技能検定(英検)、IELTS、ドイツ語検定試験、Zertifikat Deutsch、実用フランス語技能検定試験、DELTA、中国語検定試験、HSK、スペイン語技能検定、DELE、ロシア語能力検定試験、「ハンブル」能力検定試験、韓国語能力検定試験 など
卒業後の進路(注1)(就職)	●大手企業(金融、メーカー、流通、マスコミ など) ●シンクタンク、コンサルティング ●企業・地方公務員 ●公認会計士、税理士	●公認会計士、税理士 ●大手企業(銀行、保険、証券、コンサルティング、流通 など) ●企業経営者 ●国家・地方公務員	●大手企業(企画・国際・人事部門 など) ●国家・地方公務員 ●NPO、NGO ●国際機関	●大手企業(銀行、商社などの情報分析部門) ●システムエンジニア ●シンクタンク ●博物館学芸員 ●大学院進学	●大手企業(通信、電子部品、半導体、機械、電気、自動車、化学などの技術部門・研究部門) ●大学院進学 ●国際機関 ●国家・地方公務員	●大手企業(医療機器、自動車、機械、電気、電子機器、製薬、通信情報、化学 など) ●大学院進学 ●企業・公的研究機関の研究・開発職 ●教育・福祉関係	●大手企業(医療、健康、食品、スポーツ関連) ●中学・高等学校 ●保健体育教員 ●スポーツ振興の自治体職員 ●プロスポーツマネジメント ●大学院進学	●大手企業(メーカー、サービス、金融、商社、マスコミ) ●教育、医療、福祉 ●国家・地方公務員 ●大学院進学	●大手企業(商社、金融、メーカー、マスコミ、航空、海運、旅行 など) ●NPO、NGO ●通訳、翻訳家 ●大学院進学	●海外展開している企業(メーカー、商社、旅行会社 など) ●国家・地方公務員(国際担当) ●国際交流・援助の機関(NPO・NGOを含む) ●国内外の大学院進学
卒業後の進路(注2)(大学院進学)	同志社大学大学院：神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策科学研究科、文化情報学研究科、理工学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、脳科学研究科	同志社大学大学院：神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策科学研究科、文化情報学研究科、理工学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、脳科学研究科	同志社大学大学院：神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策科学研究科、文化情報学研究科、理工学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、脳科学研究科	同志社大学大学院：神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策科学研究科、文化情報学研究科、理工学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、脳科学研究科	同志社大学大学院：神学研究科、文学研究科、社会学研究科、法学研究科、経済学研究科、商学研究科、総合政策科学研究科、文化情報学研究科、理工学研究科、生命医科学研究科、スポーツ健康科学研究科、心理学研究科、グローバル・スタディーズ研究科、脳科学研究科	同志社大学専門職大学院：司法研究科(法科大学院)、ビジネス研究科(ビジネススクール)	同志社大学専門職大学院：司法研究科(法科大学院)、ビジネス研究科(ビジネススクール)	同志社大学専門職大学院：司法研究科(法科大学院)、ビジネス研究科(ビジネススクール)	同志社大学専門職大学院：司法研究科(法科大学院)、ビジネス研究科(ビジネススクール)	同志社大学専門職大学院：司法研究科(法科大学院)、ビジネス研究科(ビジネススクール)

注1 教員数、学生数は2014年4月末現在
注2 小学校教諭一種は神戸親和女子大学通信教育部(男女共学)との連携による

注3 取得できる教員免許の教科は学科によって異なる
注4 関連する資格は学科によって異なる

教育

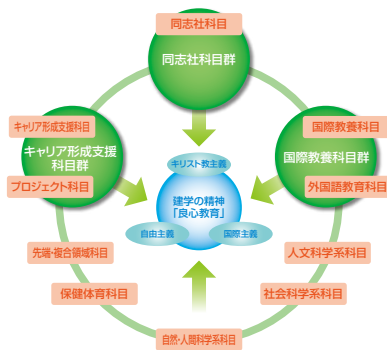
[全学共通教養教育センター] <http://cgie.doshisha.ac.jp/>
[プロジェクト科目] <http://pbs.doshisha.ac.jp/>
[国際化拠点整備事業] <http://www.doshisha.ac.jp/international/organization/network.html>

全学共通教養教育科目

全学共通教養教育科目とは、全ての学部学生を対象とした共通の教養教育科目のことです。全学共通教養教育科目では、本学の建学の精神である「良心教育」を、「キリスト教主義」「自由主義（自治自立の精神）」「国際主義」という三つの教育理念に基づき、リベラルアーツ教育の伝統を受け継ぎながら現代において展開しており、幅広い学問分野にわたり、充実した科目を開設しています。

全学共通教養教育科目の履修を通じて、大学で学ぶ上での基礎を身につけるとともに、学問の奥深さを知ることにより、自由にかつ主体的に自らの学びを積極的に広げていく、これは専門分野の研究を進める上でも、欠くことのできない重要なことです。

本学の教養教育は自ら問題を発見し、解決する「主体的な学び」の姿勢へ意識を転換した上で、「知」を「総合化」し、多様な人々の中で積極的に行動できる「人間力」を身につけることを目的としています。



プロジェクト科目

講義スタイルとは異なった実践型・参加型の学習機会を重視したプロジェクト・ベースド・ラーニング(PBL)を基本とする、授業科目「プロジェクト科目」を2006年度から設置しています。この「プロジェクト科目」は地域社会や企業の方々にテーマをご提案いただき、地域社会や企業がもつ「教育力」を大学の正規の教育課程の中に導入することによって、学生に生きた知恵や技術を学ばせるとともに、「現場に学ぶ」視点を育み、実践的な問題発見・解決能力など、いわば学生の総合的な人間力を養成することを目的としています。

テーマ
2014年度
採択 (抜粋)

- 子供が遊びながら遊び学べる知育玩具の企画立案
- 空き店舗を活用した地域活性化 一風が起こすムーブメント
- タイの一村一品運動商品の日本市場でのマーケティング企画
- 京都発のキリスト教祭服を世界に発信する
- 「音楽は心の薬」一高齢者に音楽環境を整える・ラジオを活用して
- 長刀鉾 一祭りを支える人々
- 地域応援プロジェクト ～同志社から、スポーツの力で恩返し～
- 京都伏見大学プロジェクト ～「学び」で観光の質向上を～

国際連携推進機構

◆「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」の補助期間終了と今後の展開

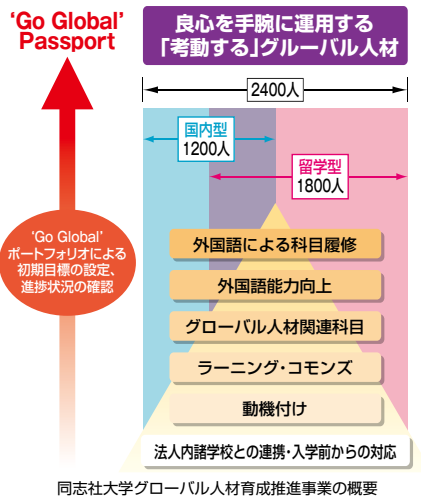
大学の機能に応じた質の高い教育の提供と、海外の学生が我が国に留学しやすい環境を提供する本事業採択を機に、英語で学位を取得できるプログラムの開発や留学生への支援・環境整備を推し進めた成果として、本学の留学生数・派遣学生数ともに飛躍的に増加し、当初掲げた「国際的教育研究拠点の形成」に向けての足掛かりを掴むことができました。5年(2009～2013年度)の補助期間は終了となりますが、引き続き大学及び日本の国際化を推進していきます。

◆「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援(Go Global Japan)」の更なる取組推進

世界を舞台に積極的に挑戦し活躍できる人材の育成を支援する本事業にも採択された本学は、在学中の科目履修や様々な経験・出会いを通じて、外国語運用能力や専門教育によって培われる知識、多様な価値観を受容する心などを身に付けた上で、「良心を手腕に運用する」ことのできる人物を養成するプログラムや支援体制の構築を積極的に進めています。

※2012年度に採択されたグローバル人材育成推進事業は2014年度から「スーパーグローバル大学等事業」の「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」として組み替えられました。

グローバル30事業を通じて構築したサポート体制や学内環境とGo Global Japanでの取組を基に、世界中で活躍できる人物の養成を通じて、グローバル化社会に貢献していきます。



同志社大学グローバル人材育成推進事業の概要

研究

<http://www.doshisha.ac.jp/research/index.html>

研究開発推進機構

研究センター(群)

現代的な応用研究の方向性を切り拓くとともに、大学院の研究教育と連携し、若手研究者の育成も目的としています。また、研究センターの設置期間を限定し、成果に対して厳格な評価を行うところが大きな特徴です。

2014.7.25現在

研究センター一覧

<ul style="list-style-type: none"> ● インフラストラクチャー研究センター ● 電磁エネルギー応用研究センター ● 高等教育・学生研究センター ● 文化遺産情報科学研究センター ● 生体医療材料研究センター ● 犯罪学研究センター ● 関係論的システムデザイン研究センター ● ソーシャル・イノベーション研究センター ● 国際比較法文化研究センター ● アフガニスタン平和・開発研究センター ● 古都ローマ・京都歴史遺産研究センター ● コリア研究センター ● イノベティブコンピューティング研究センター 	<ul style="list-style-type: none"> ● モビリティ研究センター ● ニューロセンシング・バイオナビゲーション研究センター ● 国際ビジネス法務研究センター ● 実証に基づく心理トリートメント研究センター ● 波動エレクトロニクス研究センター ● 高次神経機能障害研究センター ● 先端複合材料研究センター ● 神経疾患研究センター ● 新エネルギー変換材料研究センター ● 管径方向分配現象研究センター ● 治療システム研究センター ● ナノ・バイオサイエンス研究センター ● 市民外交研究センター 	<ul style="list-style-type: none"> ● 先端バイオメカニクス研究センター ● 創造経済研究センター ● アディボサイト&マッスルサイエンス研究センター ● 体力医科学研究センター ● 「奄美-沖縄-琉球」研究センター ● 超音波医学研究センター ● こころの科学研究センター ● 高機能微粒子研究センター ● 京都と茶文化研究センター ● 東南アジアのプランテーション研究センター ● 先端医学研究センター
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

寄付教育研究プロジェクト(群)

個人、法人、企業やその他学外機関からの寄付を受けて、本学の教育研究活動を活性化し、多様化することを目的として設置するプロジェクトです。

2014.4.1現在

寄付教育研究プロジェクト一覧

<ul style="list-style-type: none"> ● アンチエイジングリサーチセンター (バイオメディカル研究プロジェクト) ● 炎症・再生医療研究センター (バイオメディカル研究プロジェクト) 	<ul style="list-style-type: none"> ● 赤ちゃん学研究センター ● 糖化ストレス研究センター 	<ul style="list-style-type: none"> ● 天然物基盤創薬研究センター
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------

リサーチ・アドミニストレーションセンター

国際的な大学評価を確保するためには、研究戦略策定および産官学連携の推進、国内外機関および企業などからの情報収集や折衝、大型プロジェクト進捗管理など、支援を行うことが必須です。

リサーチ・アドミニストレーションセンターは、本学における研究開発推進のマネジメントを統括的にを行い、研究者がより一層研究活動そのものに専念できる環境を整備・構築し、本学の研究活動の充実と発展に寄与することを目的としています。

リエゾンオフィス

リエゾンオフィスは、大学と企業、地域社会とを結び「窓口」となり、本学の教職員が有する知的資源を公開し、研究成果をもとに広く社会と連携することを目的としています。全学的な組織として、学際的な産官学共同事業にも対応しながら、新しい産業やビジネスの創出を目指します。

一方で、総合大学としての本学の機能をトータルコーディネートし、技術や研究に関するアドバイスや、経営コンサルティングに関する相談などあらゆるサービスを提供できる体制を整えています。インターネット(ホームページ)による、情報発信にも積極的に取り組んでいます。

知的財産センター

知的財産センターでは、教育・研究成果などの知的財産を創出する支援を行います。知的財産を保護し、増強するだけでなく、社会への還元と活用を通して社会に貢献することを目的としています。学生や教職員の知的財産創出の支援、知的財産の権利化や維持・管理、社会での活用の促進といった事業を通して、本学の知的財産を活用して社会に新しい活力をつくり出す重要な拠点として、今後も多彩な活動を展開します。

高等研究教育機構

高等研究教育機構は、文部科学省の21世紀COEプログラム事業や私立大学戦略的研究基盤形成事業などの実績のある「先端的教育研究拠点」と先端的教育研究拠点等の成果による先端的及び学際的教育プログラムの開発、実施等を行う「高等教育院」により構成されます。

2014.6.30現在

先端的教育研究拠点一覧

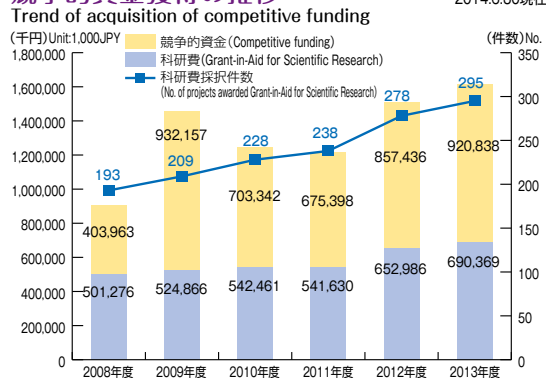
- 一神教学際研究センター
- 技術・企業・国際競争力研究センター
- エネルギー変換研究センター
- ライフリスク研究センター

2014.6.30現在

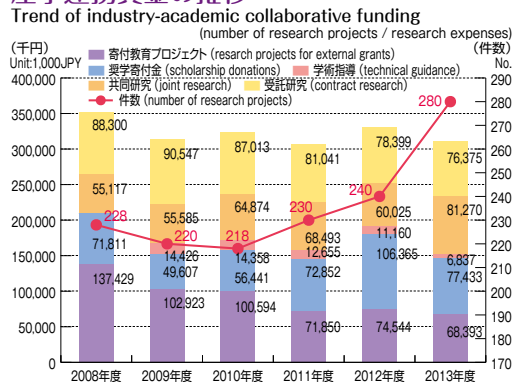
高等教育院

- 博士課程教育リーディングプログラム「グローバル・リソース・マネジメント」

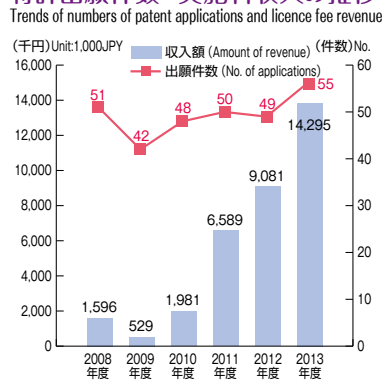
競争的資金獲得の推移



産学連携資金の推移



特許出願件数・実施料収入の推移

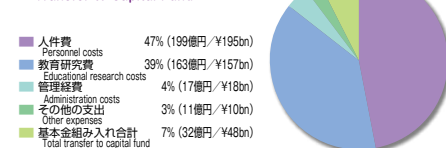


2013年度 (平成25年度) 大学消費収支計算書 Statement of Revenues and Expenses for FY2013

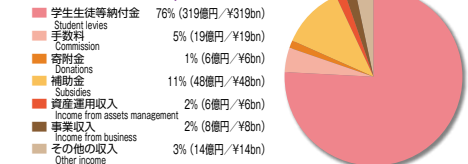
(千円) Unit: 1,000JPY

消費支出の部 (Expenses)			消費収入の部 (Revenues)				
科目 account item	予算 budget account	決算 final account	差異 balance	科目 account item	予算 budget account	決算 final account	差異 balance
人件費 Personnel	20,030,050	19,889,455	140,595	学生生徒等納付金 Student Tuition and Fees	31,818,150	31,921,615	△ 103,465
教育研究経費 Education and Research	16,250,840	16,333,091	△ 82,251	手数料 Processing Fees	1,732,200	1,878,334	△ 146,134
消耗品費他 Consumable Supplies	12,295,990	12,364,690	△ 68,700	寄付金 Donations	244,220	580,010	△ 335,790
減価償却額 Depreciation	3,954,850	3,968,401	△ 13,551	補助金 Subsidies	4,140,430	4,806,404	△ 665,974
管理経費 Maintenance	1,634,210	1,712,754	△ 78,544	資産運用収入 Asset Investment Income	548,380	616,200	△ 67,820
消耗品費他 Consumable Supplies	1,462,410	1,549,903	△ 87,493	資産売却差額 Gains from Sale of Assets	0	7,539	△ 7,539
減価償却額 Depreciation	171,800	162,851	8,949	事業収入 Income from Business Activities	623,900	851,238	△ 227,338
借入金等利息 Interest on Loans	7,390	7,387	3	雑収入 Miscellaneous	845,680	907,091	△ 61,411
資産処分差額 Asset sell-off balance	147,270	238,957	△ 91,687	繰出金 Transfer	332,820	331,473	1,347
徴収不能引当金繰入額 Allowances for Uncollectible Accounts	152,020	144,085	7,935	分担金 Assessed contribution	119,320	119,320	0
徴収不能額 Uncollectible Accounts	0	8,842	△ 8,842	附属収入合計 Gross Revenue	40,405,100	42,019,224	△ 1,614,124
繰入金 Money Transferred	675,020	702,852	△ 27,832				
予備費 Reserve fund	120,000	0	120,000				
消費支出の部合計 Total	39,016,800	39,037,423	△ 20,623	基本金組入額合計 Transfers to Capital Fund	△ 4,115,200	△ 3,154,447	△ 960,753
当年度消費収支差額 Balance amount (current year)	△ 2,726,900	△ 172,646	△ 2,554,254	消費収入の部合計 Total	36,289,900	38,864,777	△ 2,574,877
前年度繰越消費収支差額 Balance carried over from previous year	△ 34,264,140	△ 34,264,144					
支出準備金取崩額 Transfer from expenditure reserve	2,262,510	428,982					
支出準備金繰入額 Allowance for expenditure reserve	△ 218,840	△ 646,847					
調整後当年度消費収支差額 Adjusted balance amount (current year)	△ 683,230	△ 390,511					
翌年度繰越消費収支差額 Balance carried forward to next year	△ 34,947,370	△ 34,654,655					

消費支出+基本金組入額の構成比

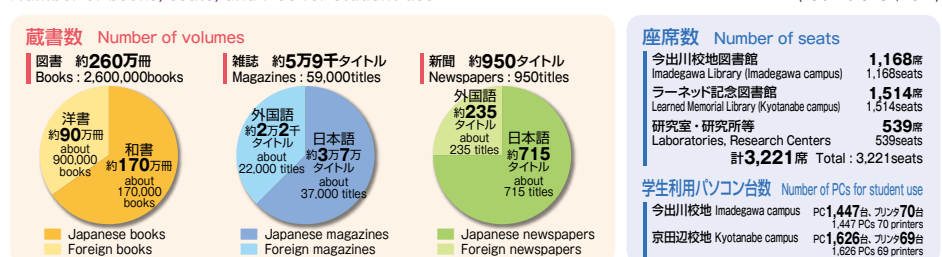


帰属収入の構成比

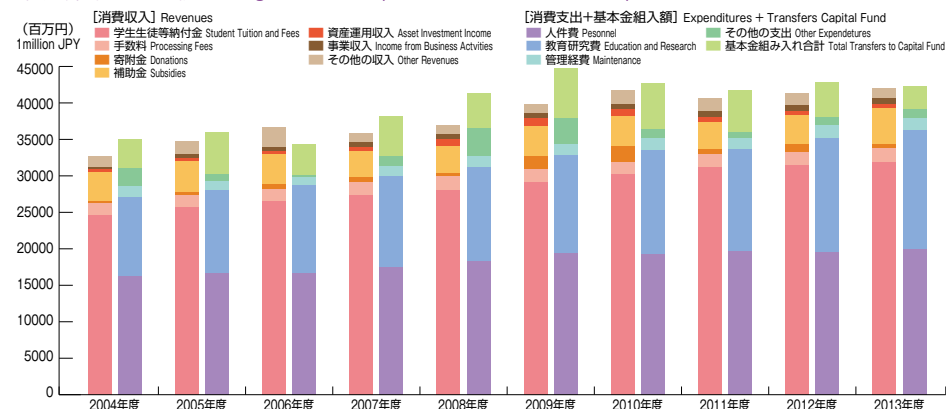


学術資料について Academic Materials in the Libraries http://www.doshisha.ac.jp/information/overview/basic_data/new.html

蔵書・座席数、学生利用パソコン台数



消費収支の推移 Changes in the composition of Revenues and Expenditures



今出川校地 Imadegawa Campus

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/imadegawa/overview.html>

今出川キャンパスは同志社大学の誕生の地であり、139年にわたる歴史そのものといえます。キャンパス内の礼拝堂、彰栄館、有終館、ハリス理化学館、クラーク記念館は国の重要文化財にも指定されている明治の建造物で、その後大正や昭和初期、近年に建てられた学舎と美しい調和を見せています。さながら明治以降の大学教育の歩みを語る生きた博物館といえるでしょう。総面積97,000㎡のキャンパスでは、約20,000人が学生生活を送っています。

The Imadegawa campus is located on the site where Doshisha was founded 139 years ago. The campus building of the Meiji era, such as the Doshisha Chapel, Shoeikan, Yushukan, Harris Science Hall, and Clarke Memorial Hall are designated as cultural properties of national importance, keeping in harmony with the modern buildings on the campus constructed in the Taisho and early Showa era. These buildings stand as a living museum, a testament to the history and development of university education in Japan through the years from the Meiji era to the present day. About 20,000 students are now studying on this campus, which has a total area of 97,000m².



139年の同志社の歴史と伝統を現代に伝え続ける学舎 Having passed down 139 years of history and tradition of Doshisha

今出川キャンパス Imadegawa Campus

- ①アーモスト館 (登録有形文化財) Amherst House
- ②光塩館 Koenkan / 法学部・法学研究科事務室
- ③啓明館 (登録有形文化財) Keimeikan
- ④待辰館 Taishinkan
- ⑤神学館 Divinity Hall / 神学部・神学研究科事務室
- ⑥致遠館 Chienkan
- ⑦有終館 (重要文化財) Yushukan
- ⑧弘風館 Kofukan / 日本語・日本文化教育センター、入学センター

- ⑨明德館 Meitokukan / 食堂、学生ラウンジ
- ⑩徳照館 Tokushokan / 文学部・文学研究科事務室
- ⑪図書館 Library
- ⑫クラーク記念館 (重要文化財) Clarke Memorial Hall / キリスト教文化センター
- ⑬至誠館 Shiseikan / 商学部・商学研究科事務室
- ⑭扶桑館 Fusokan / 国際センター
- ⑮ハリス理化学館 (重要文化財) Harris Science Hall Doshisha Gallery / 同志社ギャラリー

- ⑯同志社礼拝堂 (チャペル) (重要文化財) Doshisha Chapel
- ⑰彰栄館 (重要文化財) Shoueikan
- ⑱真義館 Shingikan
- ⑲寧静館 Neiseikan / 情報教室
- ⑳博遠館 Hakuenkan
- ㉑良心館 Ryoshinkan / 今出川キャンパス教務センター、経済学部・経済学研究科事務室、ラウンジ、食堂、コンビニ、書籍店舗、ラーニング・commons、ITサポートオフィス

烏丸キャンパス Karasuma Campus

- ㉒志高館 Shikokan / グローバル地域文化学部事務室、グローバル・スタディーズ研究科事務室、アメリカ研究所事務室、総合政策科学研究科事務室、国際教育インスティテュート事務室

室町キャンパス Muromachi Campus

- ㉓寒梅館 Kambaikan / 学生支援センター、キャリアセンター、カウンセリングセンター、保健センター、司法研究科事務室、ビジネス研究科事務室、ハーディーホール、クローバーホール

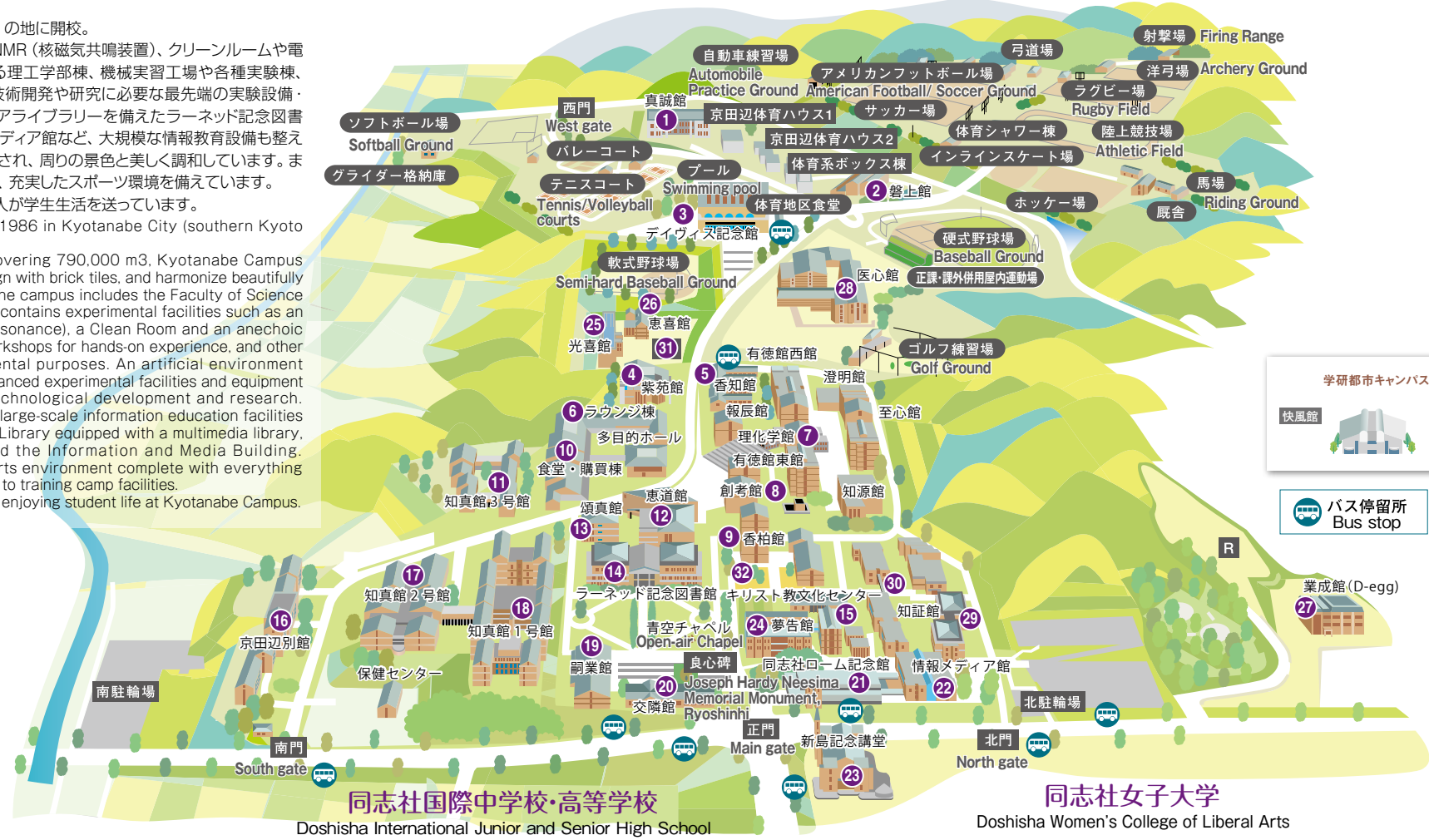
新町キャンパス Shimmachi Campus

- ㉔育真館 Ikushinkann / 体育施設
- ㉕尋真館 Jinsinkan
- ㉖臨光館 Rinkokan / 社会学部・社会学研究科事務室、政策学部事務室、新町カフェテリア
- ㉗溪水館 Keisuikan
- ㉘学生会館 (本館) Sinsmachi Student Union (Main Bldg) / クラブ・サークル部屋、練習場、会議室、シャワー室、新町ショップ、ラウンジ、購買
- ㉙新町別館 Shimmachi Student Union

京田辺校地 Kyotanabe Campus

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/kyotanabe/overview.html>

1986年、京田辺市（京都府南部）の地に開校。
 総面積79万㎡の広大な敷地に、NMR（核磁気共鳴装置）、クリーンルームや電波暗室といった実験施設を有する理工学部棟、機械実習工場や各種実験棟、人工環境制御室など、次世代の技術開発や研究に必要な最先端の実験設備・機器がそろそろほか、マルチメディアライブラリーを備えたラーネット記念図書館、同志社ローム記念館や情報メディア館など、大規模な情報教育設備も整えられた学舎は、煉瓦タイルで統一され、周りの景色と美しく調和しています。また、各種競技場から合宿施設まで、充実したスポーツ環境を備えています。
 京田辺キャンパスでは、約9,000人が学生生活を送っています。
 Kyotanabe Campus opened in 1986 in Kyotanabe City (southern Kyoto Prefecture).
 Set amid extensive grounds covering 790,000 m3, Kyotanabe Campus buildings feature integrated design with brick tiles, and harmonize beautifully with the surrounding scenery. The campus includes the Faculty of Science and Engineering building, which contains experimental facilities such as an NMR unit (Nuclear Magnetic Resonance), a Clean Room and an anechoic chamber. There are machine workshops for hands-on experience, and other buildings for diverse experimental purposes. An artificial environment chamber is among the many advanced experimental facilities and equipment needed for next-generation technological development and research. Furthermore, the campus offers large-scale information education facilities including the Learned Memorial Library equipped with a multimedia library, the Doshisha Rohm Plaza and the Information and Media Building. Additionally, there is a rich sports environment complete with everything from a stadium for diverse sports to training camp facilities. Some 9,000 people are currently enjoying student life at Kyotanabe Campus.



同志社の新たな出発を感じさせる理想の学習環境 Offering an ideal learning environment, which engenders the feeling of Doshisha's new beginning

- ① 真誠館 Shinseikan
- ② 磐上館 Banjokan / スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科事務室
- ③ デイヴィス記念館 Davis Memorial Auditorium / 体育館兼講堂
- ④ 紫苑館 Ishinkan / 食堂、メディアショップ
- ⑤ 香知館 Kochikan
- ⑥ ラウンジ Lounge / スポーツ支援課、京田辺キャンパス教務センター
- ⑦ 理化学館 Science Building (Rikagakukan) / 理工学部・理工学研究科事務室
- ⑧ 創考館 Sokokan / 共同実験棟
- ⑨ 香柏館 Kohakukan / 心理学部・心理学研究科事務室、グローバル・コミュニケーション学部事務室
- ⑩ 食堂・購買棟 Dining Halls / School Stores / 食堂、おいしんボ横丁、購買、書籍店舗、プレイガイド
- ⑪ 知真館3号館 Chishinkan3
- ⑫ 恵道館 Keidokan
- ⑬ 頌真館 Shoshinkan / 情報教室

- ⑭ ラーネット記念図書館 Learned Memorial Library
- ⑮ キリスト教文化センター Center for Christian Culture
- ⑯ 京田辺別館 Kyotanabe Student Union / 文化系クラブ・サークルBOX、音楽・演劇総合練習場（音楽・コーラス・演劇各練習場、アトリエ、会議室など）
- ⑰ 知真館2号館 Chishinkan2 / 歴史資料館
- ⑱ 知真館1号館 Chishinkan1 / カウンセリングセンター
- ⑲ 嗣業館 Shigyokan / キャリアセンター、学生支援センター
- ⑳ 交隣館 Korinkan / 講師控室、ラウンジ、共同研究室
- ㉑ 同志社ローム記念館 Doshisha Rohm Plaza / リエゾンオフィス、国際センター
- ㉒ 情報メディア館 IT and Media Center / 情報教室、ITサポートオフィス
- ㉓ 新島記念講堂 Neesima Memorial Hall
- ㉔ 夢告館 Mukokukan / 文化情報学部・文化情報学研究科事務室
- ㉕ 光喜館 Kokikan
- ㉖ 恵喜館 Keikikan
- ㉗ 業成館 (D-egg) Gyoseikan
- ㉘ 医心館 生命医科学部・生命医学研究科事務室
- ㉙ 知証館北館 Chishokan / 機械系実験実習棟、機械実習工場、機械実習工場別棟
- ㉚ 知証館南館 Chishokan / 自然系等実験実習棟、電気系実験実習棟
- ㉛ 複合的研究施設建設予定地
- ㉜ 京田辺キャンパス礼拝堂建設予定地

建物紹介

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/buildings/imadegawa.html>
<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/buildings/kyotanabe.html>

今出川校地 Imadegawa Campus



クラーク記念館(国の重要文化財)
Clarke Memorial Hall
 B.W.クラーク夫妻からの寄付により建設されたもの。ドイツのネオゴシック様式を基調とする貴重な建物で、印象的な尖塔は同志社のシンボル的存在となっている。1894(明治27)年の開校時はラーニングホールと呼ばれ、神学教育・研究の中心となっていた。2008年2月、5年にわたる保存修理工事を経て竣工。
(designated as a national important cultural property)
 The construction of the Clarke Memorial Hall was made possible by a contribution from American missionaries, Mr. and Mrs. B.W. Clarke. It is a stately and magnificent building based on the German neo-gothic style, whose unique steeple has become a symbol of Doshisha. It was named the Clarke Seminary when first established in 1894, and was the center of theological education and research. The repair for preservation was finished in February, 2008.



ハリス理化学館(国の重要文化財)
Harris Science Hall
 理科教育をめざした新島襄の情熱に応えたJ.N.Harrisの厚意により、ハリス理化学館(工学部の前身)の校舎として建築された。1890(明治23)年の竣工で、イギリス風の煉瓦建築。現在は「同志社ギャラリー」として展示等を行っている。
(designated as a national important cultural property)
 This British-style brick building was constructed in 1890 through the generous benefaction of an American businessman, J.N. Harris, who had great empathy with Neesima's strong enthusiasm for science education. The building was the predecessor of the present Faculty of Science and Engineering at Doshisha University. The building currently functions as Doshisha Gallery, for exhibitions, displays, etc.



礼拝堂(チャペル)(国の重要文化財)
Doshisha Chapel
 D.C.グリーンが設計し、1886(明治19)年に竣工したアメリカンゴシック調の鉄板葺き煉瓦造り。アメリカンゴシックの寄付により建築された。日本におけるプロテスタントの煉瓦造の礼拝堂としては現存する最古のもの。同志社の歴史とキリスト教精神を象徴する建物である。
(designated as a national important cultural property)
 This American-Gothic brick building, with its iron-sheet hatched roof, was constructed in 1886 following a donation from the American Board of Commissioners for Foreign Missions. It was designed by D.C. Green and is the oldest brick Protestant chapel in existence, as well as being a symbol of the history and the spirit of Doshisha's Christianity.



彰栄館(国の重要文化財)
Shoekan
 アメリカン・ボードの寄付によりD.C.グリーンが設計し、1884年に竣工。レンガ造の洋風な外観に対し、内部の間仕切壁や小屋根など、構造形式は純和風。塔屋は鐘塔と時計塔を兼ねており、毎朝の礼拝を告げる鐘の音は、明治以来、同志社中学校が若菜キャンパスに移転するまで、両鐘生と呼ばれる中学校の生徒が担当していた。現在は学長室が設置されている。
(A National Important Yourt Cultural Property)
 The building Shoekan was donated by the American Board of Commissioners for Foreign Missions, and designed by the missionary Daniel Crosby Greene. It was completed in 1884. Externally, it is a brick construction in the Western architectural style. In contrast, the structural form inside the building is in a purely Japanese style, featuring typical internal partitions, roof trusses, etc. The central tower functions as both a clock tower and a bell tower. The bell tolled prayers each morning from the Meiji era until Doshisha Junior High School was relocated to the Inokura Campus. Over the years, a junior high student (given an official bell-ringer title) was assigned responsibility for tolling the bell. Today, Shoekan houses the office of the Doshisha University president, amid other facilities.



良心館
Ryoshinkan
 2012年1月に竣工した。地下2階、地上5階建ての新校舎。教学施設のほか、ラウンジや食堂、購買等も備えた延床面積40,000㎡を超える複合施設。建物中央部の2階から3階にかけては、日本の大学では最大級のラーニング・commonsを設けており、学生の学術活動の拠点となっている。
 This new building was completed in October 2012 with five floors above ground and two below, in addition to educational facilities, the complex, with an area of over 40,000 square meters, also includes a lounge, dining hall and stores. The largest Learning Commons among Japanese universities has been established from the second to third floors in the center of the building as a hub for academic activities for students.

京田辺校地 Kyotanabe Campus



ラーネット記念図書館
Learned Memorial Library
 第2代学長であったD.W.ラーネットを記念する図書館。玄関正面には、彼の愛語句「Learn to Live and Live to Learn」(生きるために学ぶ、そして学ぶために生きよう)が刻まれている。
 This library was established to dedicate to the memory of the second chancellor, D.W. Learned.
 On the front of the building can be found the phrase he loved: "Learn to Live and Live to Learn"



デイヴィス記念館
Davis Memorial Auditorium
 新島襄の片腕となった同志社英学校の設立に貢献したJ.D.デイヴィスを記念した総合体育館兼講堂。正面ロビーには、デイヴィスの言葉「My life is my message」(私の生涯が私のメッセージです)が掲げられている。
 This multipurpose gymnasium and auditorium was constructed in memory of J.D. Davis who greatly contributed to the establishment of the Doshisha Eigakko (Academy) by supporting Neesima as a dedicated partner. Davis's words: "My life is my message," are displayed in the front lobby of the building.



同志社ローム記念館・情報メディア館
Doshisha Rohm Plaza and Information and Media Building
 マルチメディアラウンジや劇場空間などを持つ「同志社ローム記念館」と、情報関連の正確授業に使用される「情報メディア館」からなる複合施設。2003年秋に完成し、最先端の情報教育環境を提供する。
 This is a large complex consisting of the Doshisha Rohm Plaza and the Information and Media Building established in the fall of 2003. The Doshisha Rohm Plaza has a multi-media lounge theater space, while the information and Media Building is used for regular classes related to information science and technology. The entire complex offers an extremely advanced environment for information education.



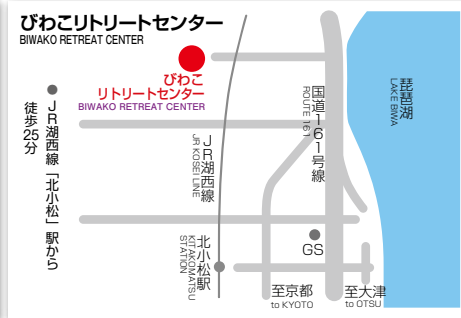
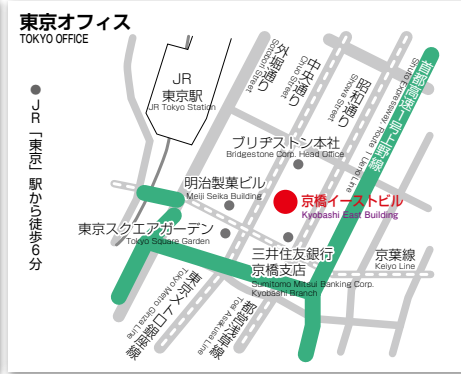
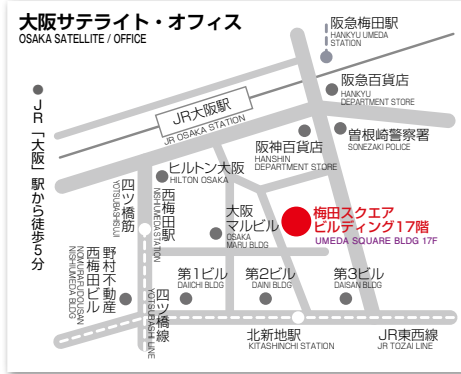
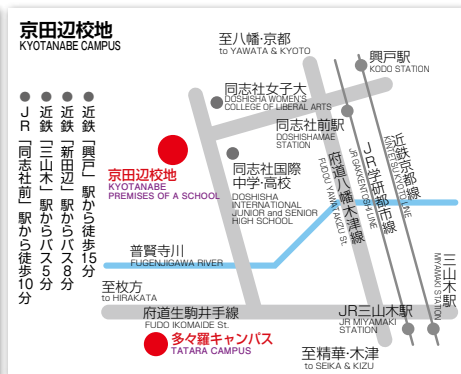
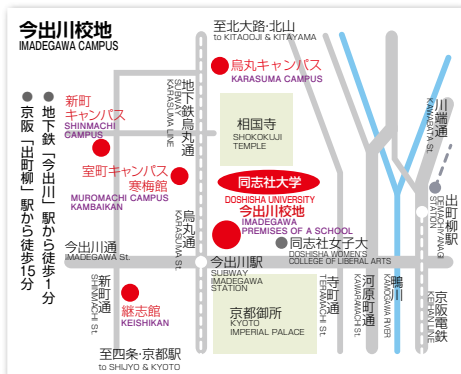
理化学館
Science Building
 今出川キャンパスにあるハリス理化学館の理念を継いだ施設。玄関正面には、J.N.Harrisの言葉「SEEK THROUGH YOUR VOCATION TO SERVE GOD AND HUMANITY」(天恵による神と人類への献身)が刻まれている。
 This building shares the philosophy of the Harris Science Hall on the Imadegawa campus. On the front of the building can be found the words of J.N.Harris, "Seek through your vocation to serve God and humanity"



新島記念講堂
Neesima Memorial Hall
 全同志社共用の礼拝堂として女子大校地内に建てられている。1988年9月に竣工。尖塔が美しい建物で、多目的に使える設備を整えている。パフォーミング・アートやコンサートを開催する大ホールは、クラシックのコンサートから礼拝まで、多岐に渡って利用されている。
 Neesima Memorial Hall was constructed in September, 1988, on the campus of Doshisha Women's College of Liberal Arts as a chapel commonly used by all Doshisha schools. The building has a beautiful steeple, and is equipped with facilities for multi-purpose use.

アクセスマップ Access map

<http://www.doshisha.ac.jp/information/campus/access/imadegawa.html>



Access Doshisha University has two main campuses; Imadegawa and Kyotanabe. Imadegawa campus is next to the Kyoto Imperial Palace, and located in the central part of Kyoto city. Kyoto is the old capital and a cultural city with 1200 years of history and tradition. Kyoto is also a student city where a number of universities are gathered, and provides a comfortable atmosphere in which to live and study, enhanced by the city's seasonal and traditional delights.

- Imadegawa campus** From JR Kyoto Station, take the Subway Karasuma Line bound for Kokusai Kaikan. Get off at Imadegawa. The campus is just outside the station. (travel time: 10minutes)
- Kyotanabe campus** From JR Kyoto Station, take the Kintetsu Kyoto Line to Shintanabe, and take a bus to Doshisha Seimon-mae. (travel time: 35 minutes)
- Kansai Science City (Gakken Toshi) Campus** From JR Kyoto Station, take the Kintetsu Kyoto Line to Kizugawada and walk 13 minutes. (travel time: 60 minutes)
- Osaka Satellite / Office** From JR Osaka Station, It is 5 minutes.
- Tokyo Office** From JR Tokyo Station, It is 6-minutes.



※今出川キャンパスから京田辺キャンパスまで電車・徒歩で約55分



Scholarships

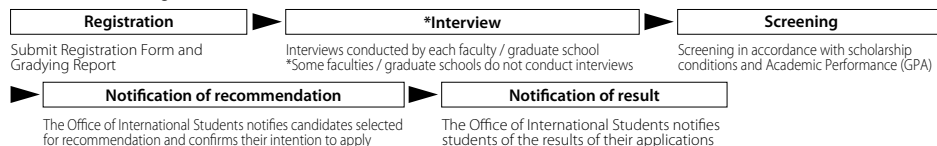
for Student Life and Scholarship, Department of Student Life for details.

The university also operates a short-term loan system to assist Regular Students experiencing difficulty in continuing their study in Japan owing to a temporary inability to meet living expenses or other exigent circumstances (such as sudden illness, fire or other disaster). If you find yourself in this kind of situation at any time after you enroll, please consult with the Section for Scholarships, Department of Student Support Services (both campuses).

*When applying for a loan, you will need to nominate a sponsor residing in Japan or other comparable individual as guarantor for your loan. Students cannot be guarantors, even if they are Doshisha University students aged 20 or over.

*7. Outside Scholarships

- (1) Application for scholarships requiring university recommendation: Notes for regular undergraduate and graduate students
1. Submit the "Doshisha University Privately Financed International Student Scholarships Application Registration Form" ("Registration Form")
 2. Process after Registration



Eligible Applicants	Registration period	Expiration date
Students enrolled in or before the Academic Year 2013	March 31(mon)~April 4(Fri), 2014	At the end of April 2015
Students who entered in April 2014	April 1(Tue)~April 4(Fri), 2014	
Students who entered in September 2014	September 29(Mon) ~October 3(Fri), 2014	At the end of April 2015*

*Newly enrolled International students in September 2014: This registration effects until the end of April 2015. From the following year, you need to register in early April and it will effect for one year.

Rather than submitting applications separately for each scholarship requiring university recommendation, students submit a single Registration Form and will then be considered for all such scholarships available in the subsequent one year period. The Committee for International Affairs will nominate candidates for recommendation based on the conditions attached to each scholarship (specification of faculty / graduate school, etc.) and on the academic performance (GPA) of each candidate. After the candidates have been selected, the Office of International Students will notify the selected candidates of such nomination by phone. If the recommendation is agreeable, the candidate is required to submit the necessary documentation for application to the Office of International Students by due date. After checking the documentation, the Office of International Students will send them to the foundation or organization providing the scholarship. The Office of International Students will notify the candidates of the outcomes of their applications and provide further direction.

Notes:

- Students who forget to register will be disqualified from consideration for scholarships requiring University recommendation for 2014.
- Please report to the Office of International Students if there is any change to the information you put on the registration form.
- The application for scholarship for 2015 will be available around from Fall 2014. We recommend students to submit the Registration Form even if you already have awarded a scholarship in 2014.

(2) Scholarship application for Special Undergraduate and Graduate Students
Virtually all scholarships requiring university recommendation are for Regular Students only, so there is no need for Special Students to submit the Registration Form. When the Office of International Students receives information on scholarships for which Special Students may apply, details will be announced via message boards and the university website.

(3) Scholarships for individual application by students
Whenever a call for application for a scholarship is received by the Office of International Students, information will be posted on message boards and the website. Specific inquiries and applications should be directed to the organization operating the scholarship in question.

*8. Doshisha University Reduced Tuition Scholarships for Students of the Intensive Japanese Language Program 'Bekka'

Eligible applicants :

Students of the Intensive Japanese Language Program 'Bekka' who demonstrates excellent academic performance and personal qualities.

Issuance of scholarship :

The scholarship will be applied to the payment of tuition due in the second semester after enrollment.

Duration of scholarship : 1 year

Amount of scholarship :

- (1) Equivalent to 50% of tuition
- (2) Equivalent to 30% of tuition
- (3) Equivalent to 20% of tuition

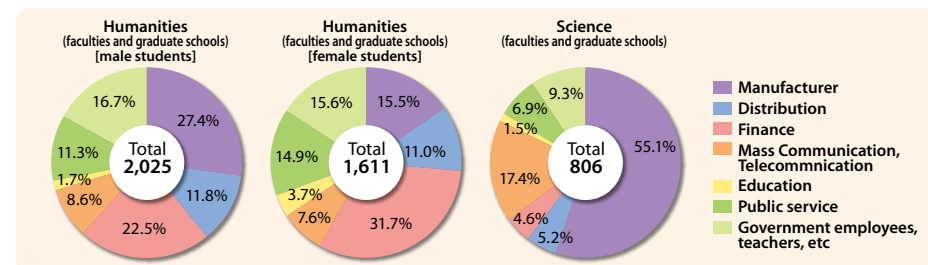
Application period :

Late June (for Spring entrants) or mid January (for Fall entrants)
Where to apply: Office of Center for Japanese Language and Culture

Supporting Students' Career Goals

Employment opportunities in 2013

The result of employment in April 2014, we keep a high employment rate 97.4% male, 97.7% of women. And 92% of all students answered "Highly satisfied" or "Satisfied" in employment questionnaire.



Qualification and certificate courses / New courses for those entering the legal profession

Chartered Accountant Course

We offer guidance and test preparation courses for qualifications valued highly in today's society, including the National Bar Examination and examinations for Certified Public Accountant, Real Estate Appraiser and Certified Tax Accountant.

New courses for those entering the legal profession

A Faculty of Law extracurricular program run by teaching staff with the Faculty of Law or Department of Judicial Research and Training, and with the collaboration of legal professionals who are also Doshisha alumni. The program supplements preparation for examinations through projects useful also in day-to-day studies. These include bar examinations and law school admission examinations, provision of information relating to work in the legal professions, single-point courses in preparing examination answers, court attendance etiquette, etc.

▼Number of successful applicants who passed the chartered accountant examination in 2013 by university

Rank order	Name of University	No. who passed the national bar exam
1	Keio University	121
2	Waseda University	93
3	Chuo University	77
4	Meiji University	68
5	Doshisha University	49
6	Kobe University	36
7	The University of Tokyo	33
8	Kwansei Gakuin University	32
9	Kyoto University	31
10	Aoyama Gakuin University / Ritsumeikan University	26

Major employers

Construction, Real estate

Obayashi Corporation
Sekisui House, Ltd.
Daiewa House Industry Co., Ltd.
Takenaka Corporation
Asahi Kasei Group
Astellas Pharma Inc.
Otsuka Pharmaceutical Co., Ltd.
Kirin Brewery Company, Limited
Canon Inc.
Kyocera Corporation
Kobe Steel Co., Ltd.
Suntory Holdings Limited
Shiseido Co., Ltd.
Sharp Corporation
Suzuki Motor Corporation
Daikin Industries, Ltd.
Kobai Printing Co., Ltd.
Takeda Pharmaceutical Company Limited
Denso Corporation
Toshiba Corporation
Toyota Motor Corporation
NEC Corporation
Nintendo Co., Ltd.
Hitachi, Ltd.
Fuji Xerox Co., Ltd.
Fujitsu Limited
Honda Motor Company, Ltd.
Panasonic Corporation
Bandai Co., Ltd.

Mitsubishi Heavy Industries, Ltd.
Mitsubishi Electric Corporation
Murata Manufacturing Co., Ltd.
LIXIL Corporation
ROHM Co., Ltd.
Wacoal Corporation
Logistics
Itochu Corporation
Sumitomo Corporation
Daimaru Matsuzakaya Department Stores Co., Ltd.
Takashimaya Co., Ltd.
Mitsui & Co., Ltd.
Mitsubishi Corporation
UNIQLO Co., Ltd.
Finance, Insurance
The Senshu Ikeda Bank, Ltd.
SMBC Nikko Securities Inc.
Bank of Kyoto, Ltd.
Shiga Bank, Ltd.
Sompoo Japan Insurance Inc. / Nipponkoa Insurance Co., Ltd.
Dai-ichi Life Insurance Company, Limited
Daiwa Securities Group Inc.
Tokio Marine & Nichido Fire Insurance Co., Ltd.
Nanto Bank, Ltd.
Japan Finance Corporation
Nippon Life Insurance Company
Nomura Securities Co., Ltd.
Mizuho Financial Group
Sumitomo Mitsui Card Co., Ltd.
Mitsui Sumitomo Insurance Co., Ltd.
Sumitomo Mitsui Banking Corporation

Sumitomo Mitsui Trust Bank
The Bank of Tokyo-Mitsubishi UFJ, Ltd.
Mitsubishi UFJ Trust and Banking Corporation
Japan post Bank Co., Ltd.
Newspaper, Publication, Advertisement
The Asahi Shimbun Company
The Kyoto Shimbun Co., Ltd.
K.K. Kyodo News
The Sankei Shimbun Co., Ltd.
Jiji Press Ltd.
The Chunichi Shimbun Company
Dentsu Inc.
Hakuhodo Inc.
Benesse Corporation
The Mainichi Newspapers Co., Ltd.
Yomiuri Shimbun Osaka Office
Broadcasting
Asahi Broadcasting Corporation
Kansai Telecasting Corporation
Kyoto Broadcasting System Company Limited
Tokyo Broadcasting System Television, Inc.
TV Asahi Corporation
TOEI Company, Ltd.
Toho Co., Ltd.
Nippon Television Network Corporation
Japan Broadcasting Corporation
Mainichi Broadcasting System, Inc.
Yomiuri Telecasting Corporation
Information telecommunications
NTT Communications Corporation

NTT DATA Corporation
Nippon Telegraph and Telephone West Corporation
Softbank Group
Nomura Research Institute, Ltd.
Transportation
Mitsui O.S.K. Lines, Ltd.
All Nippon Airways Co., Ltd.
Central Japan Railway Company
West Japan Railway Company
Japan Airlines Co., Ltd.
Nippon Express Co., Ltd.
Nippon Yusen K.K.
Public service, etc
H.I.S. Co., Ltd.
Osaka Gas Co., Ltd.
Oriental Land Co., Ltd.
ORIX Corporation
Kansai Electric Power Corporation
JTB Corporation
Chubu Electric Power Co., Inc.
Recruit Holdings Co., Ltd.
Civil servant, teaching, other educational institute
Government official (comprehensive)
Government official (general)
National tax officer
Court official (general)
Osaka City
Osaka Prefecture
Kyoto City
Kyoto Prefecture

Scholarships

Doshisha University offers a variety of scholarships to enable international students to concentrate on their studies free from financial concerns. Recipients of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (in Japanese, the Monbukagakusho, or MEXT) scholarship are not allowed to receive any other scholarships/grants during the term of their MEXT scholarship. Therefore, please note that the recipients of MEXT scholarship are not eligible to apply for the scholarships/grants listed below.

*1. Doshisha University International Student Scholarship

Who may apply :

- Applicants must be international students (Regular Students) enrolled in an undergraduate faculty or Institute for the Liberal Arts.
- Applicants may not have been enrolled for more than 4 years (2 years for 3rd year transfer students, 3 years for 2nd year transfer students). Periods of leave of absence shall not be counted when calculating the number of years enrolled.
- Applicants must fulfill the following requirements regarding minimum total credits earned by 2013 academic year prior to application.

Period of attendance at UNVI	One Year	One year and a half	Two years	Two years and a half	More than three years
	At least 30 credits	At least 50 credits	At least 65 credits	At least 80 credits	Prospective graduate

The following students are excluded according to the rules.

- Students enrolled in and after the Academic Year 2012 and those enrolling in April 2012 as 2nd year transfer students and 3rd year transfer students.
- Students who take leave of absence during the spring semester of 2014

Selection :

Applications will be screened on the basis of their academic records, financial circumstances and other matters.

*2. Doshisha University Graduate School Scholarship

This program aims to provide for students enrolled in Master's or Doctoral programs experiencing difficulty meeting educational costs required for them to continue their academic research activities.

Eligible Applicants :

Graduate students (Regular Students)

Note: Law School and Business School students cannot apply.

Duration of scholarship :

One year

Amount of scholarship :

An amount equal to one half the total annual tuition

Selection :

To be made based on recommendations from each Graduate School

Number of Recipients last academic year :

22

※The "Guide to Scholarship Applications" will be distributed at the Scholarships Section counter of the Department of Student Support Services (Imadegawa Campus: Kambaikan 1F, Kyotanabe Campus: Shigyokan 1F).

※Students selected to receive the "Japanese Government (MEXT) Scholarship" or "Doshisha University Special Scholarship for Privately Financed International Students (A)" cannot apply for this Scholarship. (Double benefits are not allowed.)

*3. Doshisha University Undergraduate Awards for Distinction

Eligible Applicants :

Regular Students enrolled in undergraduate programs

Duration of scholarship :

One year

Amount of scholarship :

300,000yen (awarded to 100 students across all Faculties)

※Applications are not accepted from students receiving internal university grant (non-loan) scholarships equivalent to the value of total tuition.

※Inquiry may be sent to the Section for Scholarships, Department of Student Support Services

*4. Doshisha University Reduced Tuition for Self-Funded International Students

(The Admission fee, fee for Educational Support, Lab/Practical Fees, and fees for academic associations are not included)

<Graduate Students>

•Doshisha University Graduate School Reduced Tuition Special Scholarships for Self-Funded International Students

Amount of Scholarship/Number of Recipients :

Equivalent to full amount of tuition/ from 20 to 30% of international students

* The number of recipients varies according to the Graduate School.

•Doshisha University Reduced Tuition Scholarships for Self-Funded International Students

Amount of Scholarship/Number of Recipients :

*Equivalent to 50% of tuition/ from 30 to 40% of international students

* The number of recipients varies according to the Graduate School.

*Equivalent to 30% of tuition/ approximately 40% of international students

[Note]

*The reduction rate is determined by considering such factors as entrance examination results and research plans.

<Undergraduate Students>

•Doshisha University Reduced Tuition Scholarships for Self-Funded International Students

Amount of Scholarship/Number of Recipients :

*Equivalent to 50% of tuition/approximately 30% of international students

*Equivalent to 30% of tuition/approximately 30% of international students

*Equivalent to 20% of tuition/approximately 40% of international students

[Note]

*The reduction rate is determined by entrance examination results.

[Common Conditions]

Eligible Applicants

(1) Those who have passed the entrance examination for international students and hold a "College Student" visa.

(2) Those who have passed the entrance examination for international students, and hold a "Permanent Resident", "Long-Term Resident", "Spouse or Child of Japanese National" or "Spouse or Child of Permanent Resident" visa.

(3) Those who are enrolled in Doshisha University, regardless of type of entrance examination and who hold a "College Student" visa (applicants' eligibility will be preliminarily screened.)

Duration of Scholarship

Two years after admission (renewable for up to the standard number of years required for graduation in students who meet certain standards of academic performance). In being renewed, the reduction rate may be changed depending on academic performance.

Renewal (additional application is not necessary)

	Time	Conditions
Graduate Students (students of doctoral program / combined doctoral program, or students admitted into the Doshisha Law School with no basic understanding of law at the undergraduate level at their entrance)	At the end of the second year of study ※	*The scholarship might be withdrawn if beneficiaries are determined to be inappropriate as recipients by the deans of the graduate schools. *Otherwise, recipients shall receive the same rate of tuition reduction as they received upon admission.
Undergraduate Students		*To be made based on academic performance by the end of the second year. *International students whose GPA is 1.50 or less or who have earned half the maximum number of credits allowed or less are not eligible to renew their scholarships.

※The duration of the scholarship is up to the standard number of years required for graduation. (However, time taken off for military leave is excluded.)

[Notes]

- As a rule, recipients are not able to receive other scholarships for tuition at the same time.
- As a rule, the period of leave of absence is included in the duration of scholarship. However, this shall not apply to a military leave.
- Not applicable to the recipients of "Doshisha University Graduate School Scholarships for Young Doctoral Students/Researchers", "Doshisha University Graduate School of Brain Science Special Scholarships".
- Renewal condition for the recipients of "Doshisha University Undergraduate School International Students Course Scholarships" or International students from designated schools overseas who have been admitted by the admission-on-recommendation system and the special recommendation system in collaboration between the Faculty of Letters, Doshisha University and designated foreign-language high schools shall be specified separately.
- In case the recipients do not meet the academic requirements for renewal because they have studied at Waseda University or a university overseas under our university-level student exchange program, the renewal conditions shall be specified separately.

*5. Scholarship for Students from Developing Countries

*Application for this Scholarship must be made at the same time as the application for the Entrance examination for international students.

Eligible Applicants :

Applicants must fulfill the following two conditions :

- Those who will obtain "College Student" Visa by the "Immigration Control and Refugee Recognition Act" after being admitted to Doshisha University.
- Those who reside in one of the countries classified as "Least Developed Countries" or "Other Low Income Countries" in the list of ODA Recipients published by OECD/DAC and hold the nationality of one of those countries. The applicants who have multiple nationalities are eligible if all nationalities are specified in the list of ODA Recipients published by OECD/DAC.

Method of Selection :

Recipients are determined in accordance with the standards specified by Doshisha University.

Duration of Scholarship :

For two years after admission (The duration of scholarship may be renewed for up to 4 years.)

In principle, the period of leave of absence is included in the duration of scholarship. However this shall not apply to military leave.

Amount of Scholarship :

(1) 85,000 yen per month

(2) The admission fee, tuition, fee for Educational Support, Lab/Practical fees, and other fee are included.

Number of Recipients :

2 students per year (One from each semester's entry)

Renewal

(1) Students enrolled before the Academic year 2013

Recipients whose overall GPA is 2.0 or above at the end of the second year are eligible to renew their scholarship up to the standard number of years required for graduation. For recipients whose overall GPA is less than 2.0, the Doshisha University Reduced Tuition Scholarship for Self-Funded International Students is applied by the faculty.

(2) Students enrolled in and after the Academic Year 2014

Recipients whose overall GPA is 2.0 or above and have earned at least 50 % of credits required for graduation at the end of the second year are eligible to renew their scholarship up to the standard number of years required for graduation. For recipients whose overall GPA is less than 2.0 or who have not earned 50 % of credits required for graduation, the Doshisha University Reduced Tuition scholarship for Self-Funded International Students is applied by the faculty.

*6. Other Scholarships

There are also "a Doshisha University Endowment Scholarship" and "a Doshisha University Graduate School Special Scholarship" (both excluding the Law School and Business School) "Doshisha University Graduate School of Brain Science Special Scholarship" and "Doshisha University Graduate School Scholarship for Young Doctoral Students/Researchers", but these scholarships are awarded on the basis of recommendations from each Faculty and Graduate School, rather than open application. Please inquire at the Section

Research

Office for Reserch Initiatives and Development

Research Centers

The Research Centers aim to set out a new direction of contemporary applied reserch and foster young reseachers in collaboration with research education of the graduate schools, in addition, the active period of each center is limited so that a rigorous evaluation of the research results can be undertaken.

Research Centers	As on July 25, 2014
<ul style="list-style-type: none"> Center of Infrastructures Research Research Center of Applied Electromagnetic Energy Higher Education and Student Research Center Center for Knowledge Science in Cultural Heritage Bio-Medical Material Research Center Research Center for Criminology Research Center for Relationality-Oriented Systems Design Center for Social Innovation Study International Research Center on Comparative Legal Culture Research Center for Peace and Development in Afghanistan Center for the Study of Historical Heritages of Ancient Rome and Kyoto Center for Korean Studies Innovative Computing Research Center Mobility Research Center Neurosensing and Bionavigation Research Center Research Center for International Transactions and Law Center for Wing of Empirically Supported Treatments (WEST) Wave Electronics Research Center Center of Neurological Disorder Research 	<ul style="list-style-type: none"> Research and Development Center for Advanced Composite Materials Center for Neurologic Diseases Research Center for New Energy Conversion Materials Tube Radial Distribution Phenomenon (TRDP) Research Center Therapeutic Systems Research Center Research Center for Nano-Bioscience Doshisha Center for Civil Diplomacy (DCCD) Research Center for Advanced Bio-Mechanics Research Center for the Creative Economy Research Center for Adipocyte & Muscle Science Physical Fitness and Sports Medicine Research Center Amami-Okinawa-Ryukyu Research Center Ultrasound in Medicine Research Center Research Center for Psychological Science Research Center for High-Performance Fine Particles Research Center for Kyoto and tea culture Research Institute for Plantations in Southeast Asia Advanced Biomedical Engineering Research Center

Research Projects for External Grants

The following projects have been established in order to activate and diversify education and research activities funded by individuals, foundations and corporations.

Research Projects for External Grants	As on April 1, 2014
<ul style="list-style-type: none"> Anti-aging Research Center (Biomedical Research Project) Research Center for Inflammation and Regenerative Medicine (Biomedical Research Project) Center for Baby Science 	<ul style="list-style-type: none"> Anti-Glycation Research Center Research Center for Product-of-Nature-Based Drug Design

Research Administration Center

Providing support in diverse areas is indispensable for securing assessment as an international university. These include planning of R&D strategies and promotion of industry-government-academia collaboration, gathering information from and negotiations with domestic and foreign institutes and enterprises, and progress management of large-scale projects. The Research Administration Center unifies management of R&D advancement within this university. The objective of the Center is to contribute to enrichment of university research activities by providing and enhancing an environment in which researchers can concentrate fully on their research activities.

Liaison Office

The Liaison Office is the point of contact between the university, enterprises and local communities. The objective is broad collaboration with society based on disclosure of intellectual resources held by university personnel, and the yields of research. As a university-wide organization, the Liaison Office aims for creation of new industries and business, while responding to needs of interdisciplinary projects jointly undertaken by industry, government and academia. Additionally, the Liaison Office engages in total coordination of the university's functions as a general university, and is enhancing the system for providing advice concerning technology and research, management consulting, and diverse other services. Furthermore, information is actively provided on the internet (Liaison Office HP).

Intellectual Property Center

The Intellectual Property Center supports creation of intellectual properties including yields of education and research. More than simply protecting and expanding intellectual properties, the Center aims to give back to society, and contributes to society through application of these assets. The Intellectual Property Center supports creation of intellectual properties by students and university personnel, and maintains and manages intellectual property rights, while promoting application within society via business projects. The Center will continue to develop diverse activities, as an important base for injecting new vitality into society through application of the university's intellectual properties.

Office for Advanced Research and Education

The Organization for Advanced Research and Education has two principal bodies:

The Base for Advanced Research and Education has a track record of successful project implementation, including the 21st Century COE Program and the Strategic Research Base Development Program for Private Universities by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology.

The Division of Higher Education develops and implements innovative graduate school education programs, including the advanced and interdisciplinary education program based on the achievement results of the Base for Advanced Research and Education and other research centers.

The Base for Advanced Research and Education As on June 30, 2014

- Center for Interdisciplinary Study of Monotheistic Religions(CISMOR)
- Institute for Technology, Enterprise and Competitiveness[ITEC]
- Research Center for Energy Conversion System
- Life Risk Research Center

Academy of Higher Education As on June 30, 2014

- Advanced Doctoral Program in Global Resource Management

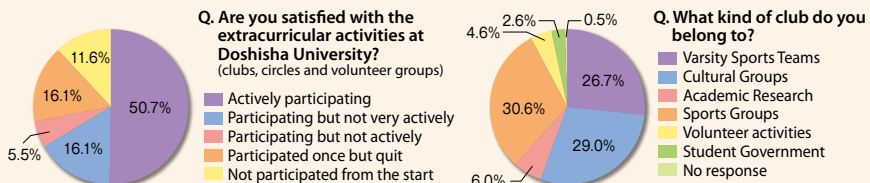
Supporting Students' life

The Student Support Services Center

This center provides comprehensive support to all students to make their student life fulfilling and enjoyable.

Support Student Development	Support Student Life
<ul style="list-style-type: none"> Transmit information on self-development Eco tours Campus Community Building Various seminars 	<ul style="list-style-type: none"> Subsidize medical fees Introduction to part-time job Student dormitory Disaster and accident insurance for student Education and research Introduction to boarding house
Support for Disabled Students	Healthcare
<ul style="list-style-type: none"> Guidance Note-taking Wheelchair help Computer interpretation 	<ul style="list-style-type: none"> Counseling Center Health Center
Support for Extracurricula Activities	
<ul style="list-style-type: none"> Subsidies Loan of facilities 	

Student life on data



List of the extracurricular aceivity groups (officially approved)

As on May 31, 2014

Cultural group (19 categories)

No. of clubs	Category	No. of clubs
1	Art	6
2	Cheerign supporters	3
3	Chorus	6
4	Christianity association	3
5	Cultural 1	7
6	Cultural 2	8
7	Drama	5
8	Human science study	7
9	Image	3
10	International study	8
11	Light music	8
12	Media	5
13	Musical instrument	4
14	Natural science study	6
15	Photography	4
16	Social science study	4
17	Traditional cultures	3
18	Traditional performing arts	6
		96 clubs

Sports group (4 categories)

No. of clubs	Category	No. of clubs
1	Indoor sports	11
2	Outdoor sports	7
3	Mountain climbing	4
4	Off-campus sports	5
		27 clubs

Varsity Sports Teams

◎ Head Office	12 Board sailing	26 Judo	40 Softball
◎ Sports Atom	13 Boating	27 Karate	41 Speed skating
1 Aikido	14 Bowling	28 Kendo	42 Sumo
2 Alpine	15 Boxing	29 Kyudo	43 Swimming
3 American football	16 Canoeing	30 Lacrosse	44 Table tennis
4 Archery	17 Fencing	31 Nippon Kempo	45 Tennis
5 Athletics	18 Field hockey	32 Rifle shooting	46 Triathlon
6 Automobile	19 Figure skating	33 Rubber baseball	47 Volleyball
7 Aviation	20 Golf	34 Rugby	48 Wandervogel
8 Badminton	21 Gymnastics	35 Semi-hard baseball	49 Wrestling
9 Baseball	22 Hand ball	36 Shorinji kempo	50 Yacht
10 Basketball	23 Horse riding	37 Skiing	
11 Bicycle race	24 Iaido	38 Soccer	
	25 Ice hockey	39 Soft tennis	
52 clubs			

Number of Students and Faculty / Staff

Enrolled students

As of April 30, 2014

Faculty / Schools	Undergraduate students (No. of female students)	Graduate students (2nd half) (No. of female students)	Graduate students (1st half) (No. of female students)	Graduate students (Integrated doctoral program) (No. of female students)
Theology	289 (151)	39 (20)	36 (13)	-
Letters	3,104 (1,964)	66 (42)	58 (25)	-
Social Studies	1,932 (1,017)	56 (42)	61 (27)	-
Law	3,788 (1,428)	164 (63)	32 (13)	-
Economics	3,906 (1,060)	25 (6)	13 (7)	-
Commerce	3,725 (1,437)	35 (22)	11 (1)	-
Policy Studies / Policy and Management	1,777 (808)	111 (59)	96 (40)	32 (8)
Culture & Information Science	1,258 (598)	43 (25)	14 (5)	-
Science & Engineering *1	3,427 (464)	746 (68)	54 (8)	-
Life & Medical Science	1,126 (379)	221 (58)	15 (6)	-
Health & Sports Science	802 (235)	20 (5)	2 (1)	-
Psychology	690 (439)	26 (15)	20 (13)	-
Global Communication	588 (400)	-	-	-
Global and Regional Studies	392 (272)	-	-	-
American Studies *2	-	-	5 (2)	-
Global Studies *3	-	78 (41)	58 (29)	-
School of Business	-	-	-	-
Brain Science	-	-	-	14 (7)
Total	26,804 (10,652)	1,630 (466)	475 (190)	46 (15)
Law School	-	132 (43)	-	-
Business School	-	133 (42)	-	-
Grand Total	-	265 (85)	-	-

Due to change of name of Faculty:

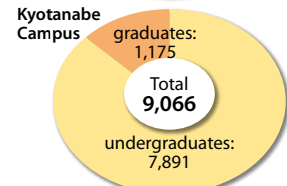
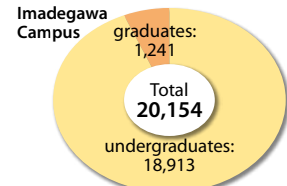
*1 Incl. Number of students who entered Graduate School of Engineering before the financial year of 2011

*2 Number of students who entered before the financial year of 2009

*3 Number of students who entered after the financial year of 2010

Number of students in each campus

As of April 30, 2014



*Incl. Number of students in Kansai Science City Campus

Number of faculty and staff

As of May 1, 2014

Faculty			Administrative staff		
Full-time faculty	785	Part-time lecturers	1,494	Total	2,279
Full-time staff members	330	Part-time staff members	535	Total	865

Number of degrees conferred

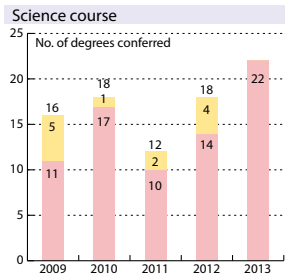
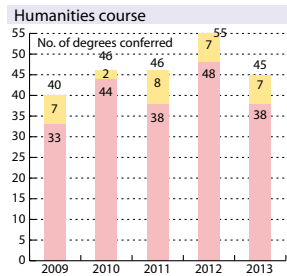
As of March 31, 2014

Number of degree recipients in 2013

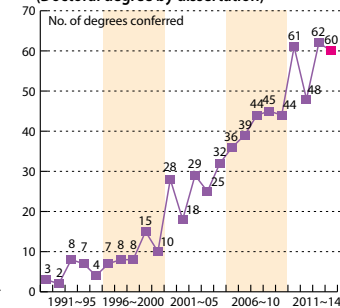
*degree recipients in the spring semester included

Department	Letters										Social Studies										Law									
	Theology	English	Philosophy	Psychology	Aesthetics and Art Theory	Cultural History	Japanese Literature	Culture	Sociology	Social Welfare	Media	Industrial Relations	Education and Culture	Law	Political Science	Economics	Commerce	Policy Studies	Biomedical Engineering	Biomedical Information	Medical Life Sciences	Health & Sports Science	Psychology	American Studies	Policy and Management	Law School	Business School	Total		
Undergraduate	68	292	62	1	68	110	110	0	75	99	102	90	65	648	242	867	870	365	431	890	15	20	31	19	56	15	20	31		
Graduate School	15	2	2	3	26	3	19	7	7	0	2	1	6	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3		

▼Number of Doctoral degrees conferred for past five years



▼Changes in the number of degrees conferred (Doctoral degree by dissertation)



*Humanities: Total number of degrees conferred in graduate schools except for the Schools of Engineering and Life and Medical Sciences.
*Science: Number of degrees conferred in the Schools of Engineering and Life and Medical Sciences.

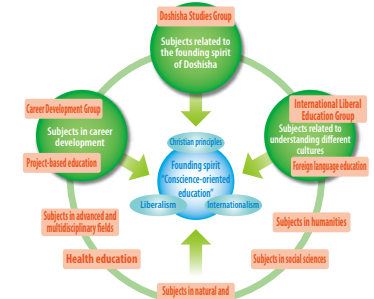
Education

General and Liberal Education

General and Liberal Education is part of the liberal education curriculum available to all undergraduates at Doshisha University, and is comprised of a large number of stimulating subjects covering a broad range of academic fields. Based on the three educational ideals of "Christian principles," "liberalism" (autonomy and independence), and "internationalism," and carrying on the traditions of a liberal arts education, Doshisha University's founding spirit of "conscience-oriented education" is carried forward today. Doshisha has set out to enhance and improve its General and Liberal Education through the establishment of subjects in a wide range of areas.

It is hoped that through studies in General and Liberal Education, students will be able to acquire the basics for their studies at the University, as well as come to better understand the depths of academic learning, leading them to freely and actively pursue further and broader studies on their own initiative. What the students learn here is of great importance and will be indispensable to the research activities they carry out in their specialized fields.

Through diligent study of General and Liberal Education, it is hoped that students will not simply be given pre-packaged knowledge in a one-way flow, but will instead change to a more proactive approach enabling them to seek out issues and find the solutions on their own, and make "knowledge" comprehensive in acquiring the human power needed to proactively carry out actions among a broad diversity of people.



Project Program

Established in 2006, the Project Program is based on PBL, or Project-Based Learning. PBL differs from the conventional lecture style in that the emphasis is on practical and participatory learning opportunity. The "educational power" of local communities and businesses is introduced into the regular university curriculum, with people from outside being invited to propose and then speak on particular themes. PBL helps students to acquire real-world awareness and skills. At the same time, we aim to cultivate a perspective of on-site learning, and practical skills in detection and resolution of problems. In effect, the objective of PBL is to nurture comprehensive human abilities.

Some of the themes of the project program adopted in 2014

- Planning and designing intellect-training toys that offer children a joyful learning experience.
- Revitalization of local communities through use of vacant stores – The Ripple Effect.
- Planning marketing in Japan for products from the "One Village One Product Movement" in Thailand.
- Advertising traditional culture of Kyoto to the world by using the yuzen dye method in planning and producing Christian vestments.
- "Music is medicine for the mind" – Organizing a musical environment for senior citizens, including use of radio broadcasting.
- The Naginata-boko Float – People Supporting Gion Festival
- Community Support Project – Doshisha gives back to the community through the power of sports.
- University Project for Fushimi in Kyoto – Using "Learning" to enhance the quality of tourism.



Organization for Advancement of International Cooperation

End of supplementary period of Global 30 (a government-sponsored project promoting formation of networks to further internationalization of universities), and future development

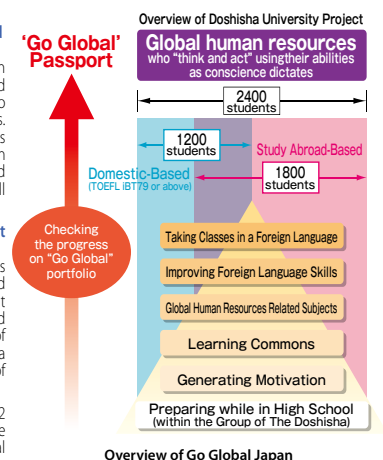
Doshisha University was selected to take part in a project to provide high quality education befitting the functions of a university, and an environment that allows students from abroad to easily study in Japan. The university then developed programs enabling students to obtain a degree using English and promoted a support environment for foreign students. The outcome was a rapid increase in the number of students from abroad attending this university and students sent from here to study overseas. We thus gained a firm foothold on the path to realizing our original goal – "Creation of a center for international education and research." Although the 5-year supplementary period (2009-2013) has ended, Doshisha will continue to advance internationalization of the university and Japan.

Promoting further measures by [Go Global Japan], a global human resources support initiative that aims to advance development of economic society.

This university was selected to take part in Go Global Japan, an initiative that supports cultivation of human resources with the ability to actively take on challenges on the world stage. Doshisha is vigorously advancing construction of related programs and support systems. These programs and systems aim to cultivate in people the ability to "listen to and follow the inner voice." The foundation of this ability is established through completion of subjects and various experiences and encounters, through knowledge acquired via operational capability in foreign languages and specialized education, and development of a mind able to accept diverse perspectives of values.

In 2014, the global human resources education and advancement project adopted in 2012 was reorganized as the [Go Global Japan Project], a global human resources support initiative that aims to advance development of economic society, as part of the [Super Global University Project].

Based on support systems and university environment built through Global 30 projects, and on Go Global Japan measures, the university contributes to globalizing society by cultivating people who are able to work actively on the global stage.



Overview of Go Global Japan

More Information on Faculties and Departments

	Characteristics	Career Options
School of Theology	<ol style="list-style-type: none"> One of the world's leading educational institutions teaching about Christianity, Islam and Judaism Nurturing individuals who can play an active role in the international community, aiming for the "coexistence of civilizations" 	<ul style="list-style-type: none"> Education, Social welfare Minister Major enterprises (service, trading companies, etc.) International organization National and local government employees
Faculty of Letters	<ol style="list-style-type: none"> Students experience life and learning in Kyoto, where there is a long tradition of Japanese culture Traditionally, we are providing instruction in small groups 	<ul style="list-style-type: none"> Education, social welfare Large corporations (finance, publishing, services, etc.) National or local government employment Museum curator Librarian Advance to graduate school
Faculty of Social Studies	<ol style="list-style-type: none"> Theoretical study on social phenomena with a focus on the relationship between people and society Practical education emphasizing first-hand experiences with fieldwork and practical training 	<ul style="list-style-type: none"> Education, Social welfare National and local government employees Think tanks Major enterprises (mass media, service, bank, insurance company, securities company, etc.)
Faculty of Law	<ol style="list-style-type: none"> Offering Practical legal training and hands-on experience to facilitate law students' diverse career goals, including positions in corporate legal affairs and journalism Providing world-class legal education programs implemented in close cooperation with the graduate school 	<ul style="list-style-type: none"> Lawyer, judge, prosecutor National and local government employees Journalist Major enterprises (finance, distribution, manufacturing, etc.)
Faculty of Economics	<ol style="list-style-type: none"> Responding to the information society with a solid IT education, nurturing individuals who can play an active role in the real world Offering a high quality and highly specialized education through close collaboration between the faculty and the graduate school 	<ul style="list-style-type: none"> Major enterprises (bank, insurance, securities, manufacture, trading, etc.) National and local government employees National Tax Specialist Corporate manager
Faculty of Commerce	<ol style="list-style-type: none"> The number of applicants who have passed the examinations of CPA and CPTA ranks at the highest level among universities in the nation Practical courses by business people from various fields 	<ul style="list-style-type: none"> CPA, CPTA, Security analyst, Financial planner Major enterprises (bank, insurance, securities, consulting, distribution, etc.) Corporate manager National and local government employees
Faculty of Policy Studies	<ol style="list-style-type: none"> Cultivating an ability to identify and solve a problem by oneself Providing a professional education where students can learn policy issues from a multilateral standpoint 	<ul style="list-style-type: none"> Major enterprises (planning, international, personnel) National and local government employees NPO, NGO International organization
Faculty of Culture and Information Science	<ol style="list-style-type: none"> Developing students' ability to analyze 'culture' and get a new perspective on it Cultivating a solid data analysis ability and an ability to fully utilize information 	<ul style="list-style-type: none"> Large corporations (information analysis divisions at banks, trading companies, etc.) System engineer Think tanks Museum curator Advance to graduate school

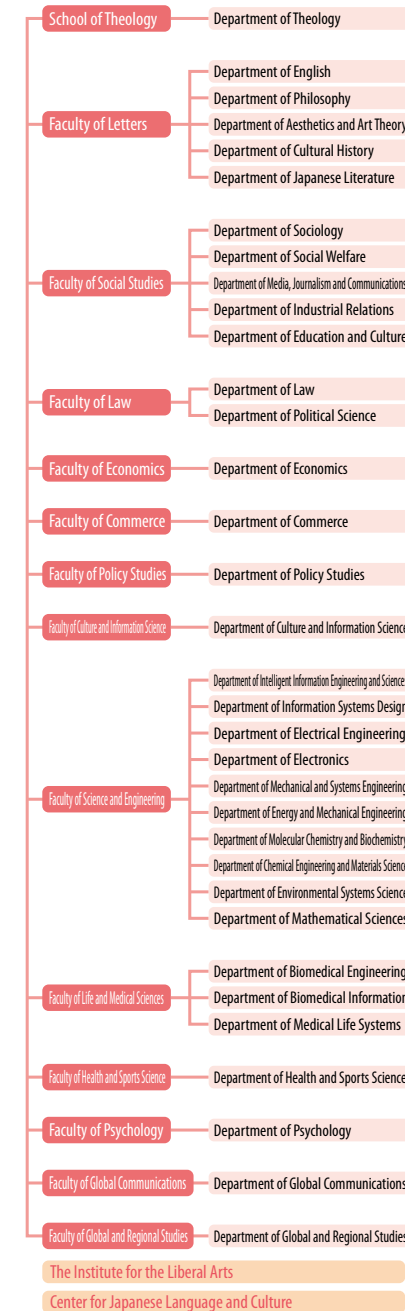
	Characteristics	Career Options
Faculty of Science and Engineering	<ol style="list-style-type: none"> Providing thorough education of the fundamentals of science and engineering in order to respond to future technological innovation Equipped with world leading facilities More than 50% of the students go on to graduate school 	<ul style="list-style-type: none"> Large corporations (technology and research divisions in communications, electronics components, semiconductors, machinery, electricity, automotive, chemical, etc.) Advance to graduate school International institutions National or local government employment
Faculty of Life and Medical Sciences	<ol style="list-style-type: none"> Development curriculum for biomedical engineers and researchers who will be key players in broad areas of life and medical sciences Provides multidisciplinary educational research programs covering engineering, medicine, basic biology and other fields 	<ul style="list-style-type: none"> Large corporations (medical equipment, automotive, machinery, electricity, electronics, pharmaceutical, information & communications, chemical, etc.) Advance to graduate school R&D at private companies or government-funded research centers Education/welfare-related organizations
Faculty of Health and Sports Science	<ol style="list-style-type: none"> Educates experts who can help improve people's health and enhance the role of sports in society Provides a fully developed research environment in cooperation with research and medical institute inside and outside the University 	<ul style="list-style-type: none"> Large corporations (medical, healthcare, food, sports-related) Health & physical education teacher at junior / senior high school Local government employee involved in promoting sports Professional sport management Advance to graduate school
Faculty of Psychology	<ol style="list-style-type: none"> We provide well-organized and highly specialized education across three areas : behavioral and neuroscience, clinical and social psychology, and educational and developmental psychology We develop in students problem-solving skills by conducting a range of psychological experiments, and through project-based learning in small class settings 	<ul style="list-style-type: none"> Large corporations (manufacturing, services, finance, trading companies, mass media) Education, medical, social welfare National or local government employment Advance to graduate school
Faculty of Global Communication	<ol style="list-style-type: none"> We develop refined practical foreign language ability. One year Study Abroad required (English/Chinese course) We nurture students to become talented facilitators, negotiators and administrators in the global area. 	<ul style="list-style-type: none"> Large corporations (trading companies, finance, manufacturing, mass media, airlines, shipping, travel companies, etc.) NPO, NGO Interpreter, translator Advance to graduate school
Faculty of Global and Regional Studies	<ol style="list-style-type: none"> We develop human resources that can take a global perspective on social and cultural attributes in different regions as well as on various issues on a worldwide scale. Students will take one of three courses on Europe, Asia-Pacific or the Americas and learn the ability to manage the languages of the particular region. 	<ul style="list-style-type: none"> Companies expanding overseas (manufacturing, trading companies, travel companies, etc.) National or local government employment (international affairs) Institutions involved in international exchange / aid (including NPOs and NGOs) Advance to domestic or overseas graduate school

History of Doshisha University

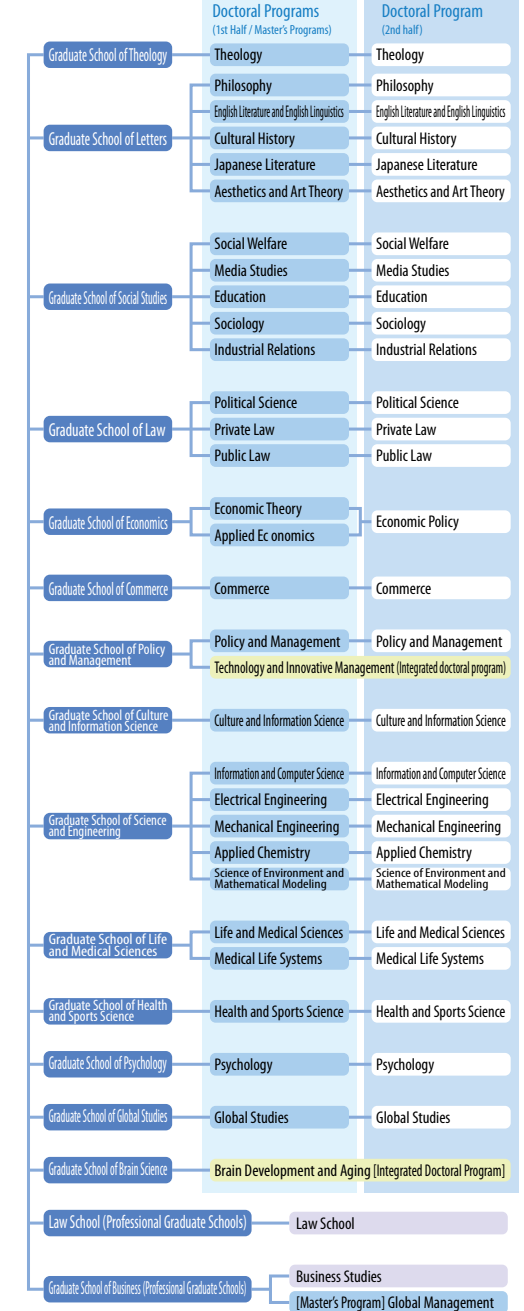
1875 Nov. 29	Doshisha Eigakko (Academy) established Joseph H. Neesima named first chancellor	1953 Apr.	The Doctoral programs established at the Graduate School
1876 Sep.	The first school buildings constructed on the Imadegawa campus	1954 Apr.	Doshisha Junior College discontinued 4-year evening courses (Faculties of Letters, Law, Economics, Commerce and Engineering) established
1884 Sep.	Shoeikan, the first brick building on campus, constructed (designated as an important cultural property)	1955 Apr.	The Master's program in Engineering established
1886 June.	Doshisha Chapel constructed (designated as an important cultural property)	1986 Apr.	The Tanabe campus (present Kyotanabe campus) opened
1887 Nov.	The library (present Yushukan) opened (designated as an important cultural property) Doshisha Hospital and Kyoto Training School for nurses established	1991 Apr.	The Master's program in American Studies established
1888 Nov.	Charter of the Doshisha announced in major newspapers and magazines.	1994 Apr.	Faculty of Engineering, the Graduate School of Engineering, and the Science and Engineering Research Institute move to the Tanabe (present Kyotanabe) campus
1890 Jan. 23	Neesima died in Oiso, Kanagawa Pref. (age 46)	1995 Apr.	Graduate School of Policy and Management established
July.	Harris Science Hall constructed, funded by J.N. Harris (designated as an important cultural property)	1999 Apr. 2004 Apr.	The Center for Japanese Language established Faculty of Policy Studies established Departments of Information Systems Design, and Environmental Systems Science in the Faculty of Engineering established Doshisha University Law School (Professional Graduate School of Law) and Doshisha Business School (Professional Graduate School of Business) established
Sep.	Harris Science School opened		
1891 Sep.	School of Politics and Law established		
1894 Jan.	Clarke Devinity Hall (present Clarke Memorial Hall) opening ceremony (designated as an important cultural property)		
1896 Apr.	Futsu Gakko (Regular School) renamed as Doshisha Koto Futsu Gakko (Doshisha Upper Regular School) Doshisha Jinjyo Chugakko (Doshisha Junior High School) established	2005 Apr.	Graduate School and Faculty of Letters redesigned; Graduate School and Faculty of Social Studies established Faculty of Culture and Information Science established
1904 Apr.	Doshisha Seminary and Doshisha College established under the College Law	2006 Apr.	Doshisha Elementary School established
1912 Apr.	Doshisha University (Preparatory Course, School of Theology, Faculty of Politics and Economics, and Department of English Literature) established under the College Law	2007 Apr.	Graduate School of Culture and Information Science established
1920 Apr.	Doshisha University (Faculties of Letters, and Law, Graduate School, Preparatory Course) established under the University Law	2008 Apr.	Faculty of Engineering redesigned to Faculty of Science and Engineering Graduate School and Faculty of Life and Medical Sciences established Faculty of Health and Sports Science established
1922 Apr.	Doshisha University under the College Law reorganized and becomes Doshisha College (Theology, English teacher training, Commerce, Politics and Economics)	2009 Apr.	Graduate School and Faculty of Psychology established
1944 Apr.	Doshisha Technical College (Telecommunication, Machinery, Chemical Engineering) established	2010 Apr.	Graduate School of Global Studies established Graduate School of Health and Sports Science established
1949 Apr.	Faculties of Commerce and Engineering established	2011 Apr.	Faculty of Global Communications established Doshisha International Academy Elementary School established Doshisha International School, Kyoto established
1950 Apr.	Graduate School of Theology, Letters, Law, Economics and Commerce established Doshisha Junior College (English, Commerce and Economics, and Engineering), night classes, established	2012 Apr.	Graduate School of Brain Science established
		2013 Apr.	Faculty of Global and Regional Studies established

Faculty Organization Chart

Undergraduate Programs



Graduate Programs



Basis of Doshisha

The Vision of Joseph Hardy Neesima

139 years ago, Joseph Hardy Neesima broke new ground in Japanese education and sowed the seeds of liberal learning in people's mind, which have been passed down over generations. Neesima's vision formed the basis of Doshisha, and has always been present as Doshisha has evolved.



Joseph Hardy Neesima (1843-1890)

In the chaotic late Edo period, Neesima left Japan for Western countries with a dream and vision in his mind.

Joseph Hardy Neesima was born as a child of a samurai in 1843, and studied hard to become both a good warrior and a good scholar. Gradually gaining awareness about Western culture and Christianity, he had a serious concern about the future of Japan and realized the importance of studying in Western countries.

Neesima left Japan for America in 1864, defying an overseas travel ban. Filled with anxiety and hope, he had begun his adventure. In Shanghai, he boarded a ship, the Wild Rover, bound for Boston.



Neesima learned the Christian conceptions of conscience and liberty during his stay in America and made a strong commitment to establish a Christian university in Japan.

Under the benevolent support of A. Hardy, the owner of the Wild Rover, Neesima received baptism and studied at Phillips Academy and Amherst College. As he learned advanced Western science and technology and blended into American life, he realized that there was a deep-rooted spiritual background of Christianity in America. He decided to become a minister himself, entering a seminary after graduating from college. The eight years of study at Christian educational institutions in America taught him the importance of conscience and liberty based on Christianity, which is to live according to the will of God and to exercise the freedom only within the realm of the conscience. Neesima returned to his homeland after ten years with a strong ambition to establish a Christian university as well as to spread Christianity.

Above : Neesima escaped the country and boarded a ship, the Wild Rover, bound for the United States

Below : Neesima showing some American people how he dressed when leaving Japan



Conscience education and liberalism

Neesima defined 'conscience and liberty' as the Doshisha spirit

Upon returning to Japan, Neesima established Doshisha Eigakko (Academy) in 1875.

He wished not only to nurture individuals with diverse skills and abilities but also to nurture those who would put their conscience into practice, by cultivating a decent character with strong morality and mentality. He believed that a real democratic society could be established by respecting each person's individuality and at the same time a person must have conscience and liberty. In his last days, Neesima said "Those who teach students must treat them respectfully." His educational policy of respecting each individual student has been maintained at Doshisha over the years.

"Grand Plan of 200 Years" shows Neesima's great aspiration.

Neesima died in 1890, at the age of 46, without fulfilling his ambition. However, his students and those who had the same ambition passed on his legacy and established Doshisha University in 1912.

In 2014, Doshisha celebrated the 139th anniversary of its founding. In order to realize Neesima's words, "Education takes 200 years to complete.", we have been implementing ambitious reform programs, such as establishing new faculties and developing an advanced research system. However, our university is still on the road to achieving its mission. All faculty members and graduates, together with the students, are sharing an aspiration and making a collective effort to complete the university and to fully realize Neesima's vision.

Doshisha Today

On the Kyotanabe campus, two innovative faculties were established in April, 2008, in response to the growing importance of the research fields of life and medical sciences, and health and sports science. In 2009, the Faculty and Graduate School of Psychology were established. Also, in April 2011, the Faculty of Global Communications was established. The Faculties of Science and Engineering, Life and Medical Sciences, Health and Sports Science, Culture and Information Science, Psychology and Global Communications will make the campus a high-degree multiple research base by implementing cutting-edge education and research activities.

At the same time, the Imadegawa campus will be the research base for humanities and social science. In April 2013, the Faculty of Regional Studies was established.

Utilizing the privileged location of Kyoto, where culture and technology exist in harmony, we will further promote our unique education and research programs with the aim of becoming a university of international stature, as well as providing students, faculties, and researchers from all over the world with opportunities to engage meaningful exchanges.

The purpose of the Foundation of Doshisha University (extract)

At the end of 1874, I returned to Japan, a journey that I had dreamed about for more than ten years. I traveled with one great vision deep in my heart.

Upon returning to my country, I established Doshisha Academy. It was November 29th, 1875, the origin of today's Doshisha.

The purpose of founding Doshisha Academy was not only to equip students with a general knowledge of the English language, but also to cultivate in students virtue, enhance their integrity, and help them discipline their mind. In other words, we have made every effort to produce individuals who are able to put their conscience into practice. Such education can never be achieved only through intellectual education.

We placed Christianity at the core of the fundamentals of moral education, believing our ideal education can be achieved only by Christian moral teachings, which include devout faith, pursuit of truth and compassion for others.

There is no doubt that universities established by the Government are useful and valuable. However, it is certainly true that private universities also have an important role to play in society.

I believe it is a special characteristic and virtue of a private university that it nurtures independent and self-reliant people by bringing out their individuality.

It is not the power of a few heroes that maintains a nation. Education, knowledge, wisdom, and integrity are central to those who build and run society. We, at Doshisha, aim to produce individuals with such characteristics. It is ingrained in our ethos that our ultimate purpose lies in nurturing the people, who shall be called 'the conscience of the nation.'

*Founder of Doshisha University,
Joseph Hardy Neesima
November, 1888*

Doshisha College Song

(Words by W.M.Vories, 1908)

One purpose, Doshisha, thy name

Doth signify; one lofty aim:

To train thy sons in heart and hand

To live for God and Native Land.

Dear Alma Mater, sons of thine

Shall be as branches to the vine;

Tho' through the world we wander far and wide,

Still in our hearts thy precepts shall abide!

Emblem of Doshisha

Adopted in 1893 Designed by Hangetsu Yuasa



The emblem of Doshisha, which consists of three triangles, is a stylized Assyrian letter meaning a nation or a land. It was designed by Hangetsu Yuasa, a poet and a scholar of the Ancient Orient, whom Doshisha produced.

Hangetsu was a professor of Theology at Doshisha University when the emblem was made.

Since then, it has been interpreted as a symbol of Doshisha's educational philosophy aiming at the harmony of three elements of education: intellectual, moral and physical educations.

School Color of Doshisha

Our school colors are purple and white. The royal purple of Doshisha, which is a medium color between Tyrian purple and Edo purple, is the same school color as that of Amherst College in America where the founder, Joseph Hardy Neesima, studied. The field of the school flag is royal purple with the emblem in white.

Contents

The Purpose of the Foundation of Doshisha University	E-1	Supporting Students' Life	E-12
Doshisha College Song, Emblem and School Color of Doshisha	E-2	Scholarships	E-13
Basis of Doshisha	E-3	Supporting Students' Career Goals	E-16
History of Doshisha University	E-5	International Exchanges	16
Faculty Organization Chart	E-6	University-Industry Collaboration and Social Contribution and Academic Materials in the libraries	17
More Information on Faculties and Departments	E-7	Financial Status	18
Number of Students and Faculty / Staff	E-9	Imadegawa Campus	19
Education	E-10	Kyotanabe Campus	21
Research	E-11	Introduction to Buildings	23
		Access Map	24



DOSHISHA UNIVERSITY

a closer look 2014

Public Relations Department, Strategic Planning and Public Relations Division,
Doshisha University Kyoto 602-8580 Japan
Tel: +81-75-251-3120, Fax: +81-75-251-3080